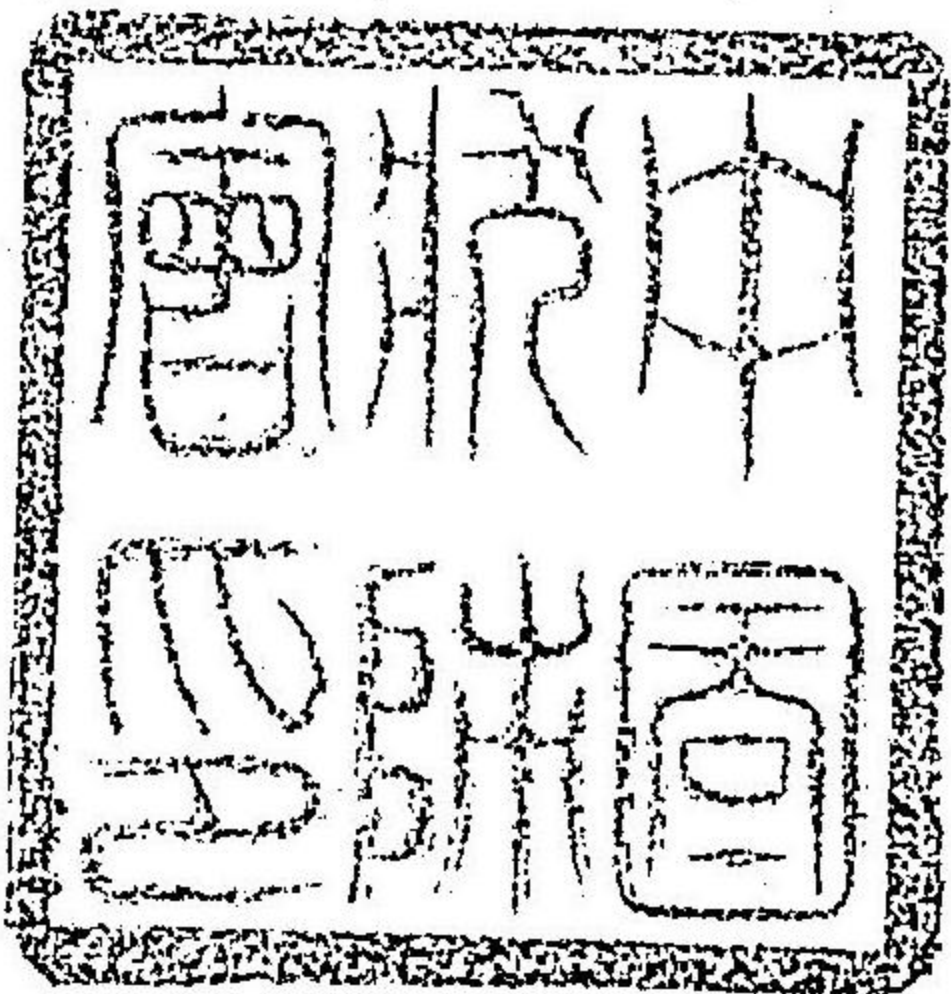


165  
569

中國狀師會  
第四回  
通常會  
議事錄

第四回  
通常會



036478-000-7

特28-940

中国状師會議事錄 第四回通常會

横木 徳太郎 / 編

M24

BBR-0159



特



凡例

一 中國狀師會員ハ明治二十四年七月二十日ヲ期シ廣島市大手町三丁目廣島法律學校  
ニ會合シ其第四通常會ヲ開キ壹週日ノ間繼續討議ヲ悉シ同月廿六日ヲ以テ全議

事ヲ終了シタリ此會合タルヤ時恰モ裁判所構成法民刑訴訟法等更定實施ノ始メニ

際シ各地法衙ノ此等諸法ニ對スル運用區々畫一ヲ欠クノ憂ヒアルノミナラス會員

諸氏カ其解釋應用上ニ關シ抱持セル所ノ意見亦素ヨリ藪カラス從テ議場ノ体面

自ラ前數次ノ會合上異ナル所アリ由テ以テ法衙ノ注意ヲ促カス可キモノアリ採テ

以テ會員ノ反省ニ任ス可キモノ等アリテ其他日ニ益スル所實ニ藪少ニアラサルヲ

信ス是レ則チ本會事務ヲ刷新シ之ヲ各會會員ニ願ツニ至リシ所以ナリ

本會ノ問題廣島地方法院院長代理同院檢事長ヨリノ諮問案(號外)赤馬關區裁判所及

同檢事ヨリノ諮問案(第四號)松江地方裁判所濱田支部檢事ヨリノ諮問案(第八號)廣

島組會員松山廣居外五氏ノ發案(第一號)ヨリ三號迄)山口組會員信吉五郎外一氏ノ

發案(第五號)赤間關組會員藤本直治郎氏發案(第六號)問題ナリシ





一本會出席員ハ廣島組合員ノ多數及尾道組合員安部改造難波泰慈原茂之山口組合員信吉五郎富家平八郎赤間關組合員藤本直治郎松江組合員向坂弘濱田組合員瀧本駒太郎ノ諸氏ニシテ鳥取組合員ハ松山廣居氏ニ代理列席ノ權ヲ委任シタルハ會議ハ廣島控訴院管内七組合六十九名ヲ代表シ其欠席ニ係ルルモノハ只米子組合員五名ノミナリシ

一右代理列席ヲ委任シタル鳥取組合員及欠席ニ係ル米子組合員ニ對シテハ特ニ郵便ヲ發シ各議案ニ關スル答案ヲ需メ此議事ノ補充ニ供センコトヲ希圖シタルモ未タ之カ回答ニ接セサルヲ以テ其實況如何ハ知ルニ由ナシ

一編纂ノ旨趣ハ可成論議ノ要旨ヲ摘録スルニ止マリ務メテ省略ニ從ヘリ故ニ議場ニ於テハ論辨再三ニ涉リ又ハ比喩類例ヲ引キシ等特ニ論理ノ精緻ヲ極メタルモノ少ナラサリシモ今多ク之レヲ省ケリ

明治二十四年八月申浚

筆記者識ス

議案

第一號問題

- 一 裁判所吏員ニ於テ代言人ニ對スル稱呼應答ハ普通人民ト差異アルヤ又普通訴訟人ニ對スル待遇如何 七
- 二 訴所ニ備吏ノミ詰メ居ル裁判所ニ於テ人民ヨリ差出ス書面等ニ付書記ニ通セス一巳ノ意見ヲ以テ應答處理スルカ如キヲナキヤ 一二
- 三 構成法實施以來裁判ニ付急速遲延何レノ感覺アリヤ 一三
- 四 裁判所又ハ檢事ヨリ代言人ニ對シ諮問スルコトアリヤ 一五
- 五 各地警察官治罪手續上ニ付テノ狀況并ニ之ニ對シ改良匡正ヲ要スヘキ事項ナキヤ 一七
- 六 辨護ノ爲メ刑事被告人ニ接見スルニ付不便ヲ感スルコトナキヤ 二〇



- 七 各地執達吏ノ狀況并ニ其職務執行ニ付人民ノ感觸如何 二三
- 八 執達吏職務取扱上ニ付匡正スヘキ事項アルヤ否 二五
- 九 裁判ノ結果完全ノ辨濟ヲ得ルモノト否ラサルモノトノ大畧ノ情供如何 二七

第二號問題

- 一 民事訴訟法實施以來訴訟人ニ於テ出訴及ビ強制執行ヲ見合ハスカ如キ傾向アラサルヤ 二七
- 二 裁判所ニ依リ取扱振リノ慣習例式アリ書式文例ヲ控訴等ニ揭示スルモノヲ除キ之ニ違ヒタル書面等ハ事ニ害ナキト法律規則ニ抵觸セサルニ拘ハラス受理セサル如キ事ナキヤ 二九
- 三 訴所ニ書記課ヲ置キ直接ニ受付ヲ爲スト否ラサルト

- ニ依リ其便否如何 三一
- 四 口頭ヲ以テ訴訟ヲ爲スモノ僅少ナルカ如シ其事由如何 三二
- 五 相手方二人以上ナル時モ訴狀副本ハ一通ニテ足りトスル裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何 三四
- 六 民事訴訟法實施以來代言人ニ事件ヲ依頼スルモノノ増減如何 四一
- 七 各地代書代人ノ狀況并ニ民事訴訟法實施ニ付代書代人ノ受ケタル影響如何 四二
- 八 各區裁判所ニ於テ代人ヲ業トスル者ニ訴訟代理ヲ許サル、ヤ否 四三
- 九 合議裁判所ニ於テ兼代人ニテ訴訟ヲ爲シ又ハ受クルコトヲ得セシムル裁判所アリ各地取扱振并ニ之ニ付テノ



意見如何

四四

十 兼總代人ヨリ複任條件ナクシテ訴訟代理人ニ依頼スルコトヲ得セシムル裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

四五

十一 訴訟書類ヲ郵送スルハ當事者ノ請求ニ依ル平將タ書記課ノ選擇ニ出ル乎其取扱手續ニ付キ各地ノ模様如何

四七

十二 判決正本ノ送達ニ遲延ノ感ナキヤ否

四八

十三 調書謄本ノ申請書ハ辨論數日ニ涉リ一纏メトナリタル調書ト雖モ各日ニ付キ各一通ノ申請書ヲ要スル裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ是ニ付テノ意見如何

四九

十四 一通ノ判決正本送達申請ニヨリ數多ノ當事者ニ判決正本ノ送達ヲ受クルヲ得ルヤ否各地ノ取扱振并ニ之

四

ニ付テノ意見如何

五〇

十五 訴訟費用確定ノ申請ハ執行力アル正本下附ノ前後ヲ問ハズ申請スルヲ得ルヤ否各地ノ取扱振并ニ其意見如何

五一

十六 欠席判決ニ對スル故障ニ付事由ノ説明ヲ要スルヤ

五三

否各地ノ取扱振并ニ其意見如何

十七 上告裁判所ニ於テ原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移

送シタル場合ニ當リ其移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ口

頭辨論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出ス裁判所アリ將タ否

ヲサル所アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

五六

十八 家資分散法第一條ニヨリ義務辨濟スル資力ナキ者ニ對シ家資分散者タル宣告ヲナス裁判所アルヤ否各地

取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

五九

五



- 十九 無報酬ニテ住居セシメタル住居人ニ對シ立退キテ  
求ムル訴訟ノ印紙貼用方ハ如何取扱ニナリ居ルヤ 六〇
- 二十 欠席判決故障ノ申立中本案ノ辦論事項ヲ掲ケタル  
其印紙貼用方ハ五拾錢ニテ可ナルヤ否各地取扱振并  
ニ之ニ付テノ意見如何 六二
- 二十一 一日貼用シタル訴訟用印紙ヲ其書類ニシテ効用  
ヲナサ、リシ其ハ理由ヲ具陳スルモ再ヒ他ノ書類ニ貼  
用ヲ得セシメサル裁判所アリ各地ノ取扱振如何 六三
- 二十二 書證原本ニ五拾錢ノ印紙ヲ貼用セシムル裁判所  
アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何 六五
- 二十三 訴訟委任狀ヲ以テ和解ノ申立ヲナサシムルヤ否  
各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何 六八
- 二十四 上訴期間ノ滿了ヲ知得スルニ付各地ノ取扱振并ニ

- 其意見如何 六九
- 二十五 仮差押保證金額各裁判所ノ程度ハ如何 七〇
- 二十六 第一審判決后訴訟印紙ニ不足アルヲ覺知シ裁  
判無効ノ控訴ヲ爲シタル場合ノ處分各地如何 七五
- 二十七 裁判確定期日ヲ知ルノ方法ハ各地如何ナル取扱  
振ナルヤ 七八
- 二十八 訴訟費用説明ノ手續ハ各地如何ナル取扱振ナル  
ヤ 七九
- 第三號問題
- 一 保釋中被告人有罪ノ判決ヲ受ケタル其當然保釋ヲ取  
消シタルモノトシテ直ニ拘留スルノ裁判所アリ各地ノ  
取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何 八六
- 二 刑事ノ控訴ヲナスニ付キ控訴豫納金ヲ他人ヨリ上納



スルヲ許サ、ル裁判所アリ各地ノ取扱振如何

八〇

三 第一審裁判所ニ於テ刑期ノ範圍内其裁判ヲ宣告シタル

ニ犯罪ノ情狀ニ照シ寛嚴ノ度ヲ失ヲタリトシテ扣訴ス

ル檢事アリ各地ノ取扱振並ニ之ニ付テノ意見如何

八一

四 訴訟カ上訴ノ上確定シタルトキハ其執行力アル正本

ハ第一審裁判所ニ於テ付與ス可キカ又ハ其最終ノ上級

裁判所ニ於テ附與ス可キヤ

八八

第四號問題

一 和解事件ニ比シ督促請求事件ノ寡少ナル理由如何

九一

二 和解調書ヲ作ルト否ヲスシテ實行迄日延ヲ與フルト

當事者間ノ便否如何

九二

三 民事訴訟上ニ付キ區裁判所ノ權限ニ属スル事件ハ今

仍ホ多クハ代人ヲ用ヒ代言人ニ依ラサルハ如何

九四

四 民事訴訟法實施後證書訴訟ノ絶テナキ理由如何

九五

五 公正證書ヲ以テ執行願出又ハ訴訟ヲオス者曾テアラ

ス右ハ人民ニ於テ公正證書ノ効驗ヲ知ラサルニ由歟又ハ

當地ニ公證人ナキニヨル歟

九七

六 執達吏ノ職務執行ニ付不當不便ノ所爲アリヤ否及ヒ

取扱上怠慢等ノコトナキヤ

九八

七 強制執行ノ際財産漏脱等ノ弊害ナキヤ若シアリトセ

ハ其防禦方法アリヤ

九八

八 廷丁ノ人民ニ對スル待遇ニ付キ不都合ノ廉ナキヤ

如何

九八

九 各裁判所人民扣訴ニ於テ代書ヲナス者ニシテ不當ノ

代書料ヲ要ムル如キ弊害ナキヤ又此等ノ者當事者ニ對

シ叩リニ教唆ヲナシ或ハ權威ヲ弄スル如キコトハナキヤ

九八



十 登記法第四十條ニヨリ登記ヲ請フ者曾ツテ之ナキハ  
人民ニ於テ法律ヲ熟知セサルニ由ル乎將タ所有權ノ確  
保ヲ重セサルニ由ル乎

一〇〇

十一 民刑事訴訟法實施後總テノ取扱上ニ付キ不便ヲ感  
スル如キコトナキヤ又他ノ裁判所ト取扱上ノ異同如何

一〇〇

### 第五號問題

一 免許代理人ニアラスシテ猥ニ民刑事訴訟ニ關與シ不  
良ノ所爲アル者ノ防止手段ノ事

一〇一

二 代言人取締方法ノ事

一〇七

本項ハ多久間判事ヨリノ諮問ト同様ノコト

三 民刑事訴訟手續上又ハ現今裁判所并ヒニ檢事局ノ書  
記課ニ於テ實行スル所ノ訴訟書類受附等ノ手續上特更  
ニ不便ヲ感スルモノ、有無ノ事

一〇九

四 利息制限法ノ今日ニ於ケル利弊ノ事

一〇九

### 第六號問題

一 和解事件ノ書面ニ訴訟印紙ヲ貼用スルヲ要スルヤ各  
裁判所ノ取扱振如何

一一一

二 代書營業者ヨリ一切訴訟ノ紹介ヲ受ケサルコトニシテ  
ハ如何及ヒ其取締方法如何

一一二

### 第七號問題

一 期間ノ切迫セル訴訟ナルニモ拘ハラス取次人ヲ以テ  
呈出セル訴狀ヲ受理セサル裁判所アリ各地ノ取扱振如  
何

一一二

二 判決ノ謄本ノ下附ヲ否ミ必スシモ正本ノ外下附セサ  
ル裁判所アリ各地ノ取扱振如何

一一三

### 第八號問題



- 一 目下各代言人ノ品位ヲ高尚ニシ他日發令アル辨護士資格ヲ有スルニ當リ其名ニ耻チサル實力ト威嚴トヲ涵養スルノ必要ニ因リ從來庇保ニ傾クノ弊ヲ打破シ孜孜汲々代言人規則第十四條各項ニ注意シ全第十七條ノ彈効ヲ嚴正ニ執行スル事隨テ其目的ヲ遂クル爲メ一ノ規約ヲ設定シ制裁ヲ附スル事 一一四
  - 二 司法三職相俟ツテ本務ノ得失ヲ攻究シ司法部ノ發達進歩ヲ謀ルヲ目的トシ毎月一二回定期會同ヲ爲ス事 一一六
- 號外問題
- 一 裁判所毎ニ民刑事訴訟手續ニ差異アリヤ若シアレハ其ノ重ナル事項 一一七
  - 二 代言人其他一般ノ人民ヲ遇スルニ裁判所毎ニ差異アリヤ 一一七

- 三 人民ヨリ提出スル文書ニ一定ノ書式ヲ設クルノ便否 一一七
- 四 民刑訴訟法施行前後各地代言人受持事件ノ増減并ニ其理由 一一七
- 五 檢事及司法警察官ノ執務上ニ付意見アレハ其意見 一一七
- 六 監獄ニ於テ辨護ノ爲メ刑事被告人ニ接見スルニ當リ不便アレハ其事項 一一七
- 七 執達吏及ヒ登記所事務取扱ノ手續ニ關シ意見アレハ其意見 一一七



# 中國狀師會

第四回  
通常會

## 議事錄

第一日 明治二十四年七月二十日

開會 午前九時四十分

出席員左ノ如シ

### 廣島組合員

松山廣居君 岡崎仁三郎君 富島豐太郎君

香川齋君 高野一步君 安倍萬太郎君

高橋嘉一郎君 平本希一郎君 宮原每太郎君

高田似壠君 渡邊又三郎君 長屋謙二君

### 山口組合員

富家平八郎君 信吉五郎君

### 赤間關組合員



藤本直治郎君

尾道組合員

安部改造君

濱田組合員

瀧本駒太郎君

○松山廣居君曰 本員ハ第三回通常會ノ議長タリシヲ以テ先例ニ從ヒ議長權舉迄ノ手續ヲ爲スベシ諸君先ツ議長ヲ投票セラレヨ

茲ニ於テ投票セシニ其結果左ノ如シ

十 一点 松山廣居君 一点 富家平八郎君

○松山廣居君曰 本員ハ諸君ノ投票ニ因リ議長ノ任ヲ諾ス又本日ハ控訴以ニ出廷スルノ事務アレバ只今ヨリ退席スベシ就テハ岡崎仁三郎君ニ議長代理ヲ托セン

茲ニ於テ岡崎仁三郎君議長席ニ着ク

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 今ヨリ本會ニ入ラン

○高野一步君曰 中國狀師會規則第十條ヲ改止シテ本會ニ常務委員三名ヲ置キ

中國狀師會全体ニ關スル常務ヲ擔當セシムトセンコトヲ建議ス

此建議ニ對シ信吉五郎君安倍萬太郎君等ノ賛成或ハ修正アリテ左ノ通り決シタリ

第十條改正

本會ニ常務委員三名ヲ置キ常務ヲ擔當セシム其任期ハ二年トス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 右ノ決議ニ基キ常務委員三名ヲ撰舉アレ

茲ニ於テ投票セシニ其結果左ノ如シ

十三点 岡崎仁三郎君 十二点 天野確郎君  
十一点 安倍萬太郎君 四点 高野一步君  
四 点 高田似壠君 一点 平本希一郎君

岡崎仁三郎天野確郎安倍萬太郎ノ三君高票ナルヲ以テ常務委員ニ當撰シ各承諾セリ



○安倍改造君曰 中國狀師會規則第三條ヲ左ノ如ク改正セシメテ建議ス

第三條改正

本會ハ毎年一回廣島ニ於テ之ヲ開ク其期日ハ常務委員ニ於テ之ヲ定メ少クトモ十五日以前ニ報告スルモノトス

此建議ニ對シ高野一步君安倍萬太郎君等ノ賛成アリテ結局建議案ノ通り可決シタリ

○信吉五郎君曰 中國狀師會規則第十二條ヲ改正シテ「本會通常經費ハ當分ノ内

廣島組合ニ於テ之ヲ負擔ス」トナシ全條ノ但書ヲ删除センコトヲ建議ス

此建議ニ對シ瀧本駒太郎君高野一步君等ノ修正或ハ賛成アリテ結局第十二條ヲ左ノ如ク改正スルコトニ決シタリ又全時ニ附則ヲ制定セリ

第十二條改正

本會ニ關スル經費ノ支出方法ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本會通常經費ハ當分ノ内廣島組合ニ於テ之ヲ負擔ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 本日ハ是ニテ閉會、明日ヨリ本問題ニ入ルベシ

茲ニ於テ問題ヲ出席員ニ配付シテ閉會セリ

時ニ午前十一時二十分

第二日 七月二十一日

開會 午前十時十分

出席員左ノ如シ

廣島組合員

松山廣居君 原田東三郎君 岡謙造君

香川齋君 岡崎仁三郎君 富島豐太郎君

高野一步君 山口武右衛門君 安倍萬太郎君

高橋嘉一郎君 平本希一郎君

松江組合員



向坂 弘 君

赤間 關 組合員

藤本 直治 郎 君

山口 組 合 員

信吉 五郎 君

○議長(松山廣居君)曰 藝備日々新聞社ヨリ新聞紙ニ掲載セン爲メ議案一部ヲ請求シ併セテ此會議ヲ傍聽センコトヲ請ヘリ諸君ノ意見如何

滿場異議ナキヲ以テ之ヲ承諾スルコトニ決ス

福岡組合代理人小野隆太郎君來會シ客員トシテ列席センコトヲ求メタリ茲ニ於テ議長ハ出席員ノ意見ヲ聽キタル上列席ヲ諾シ尙ホ各問題ニ付キ福岡地方ノ狀況及ヒ意見ヲ開陳セシムルモ議決ノ數ニ加ヘサルコトニ決ス

○議長(松山廣居君)曰 本會ハ鳥取組合ヲ除クノ外皆出席セリ但米工組合ヨリハ不參ノ通知アリ然レトモ扣訴院ノ問題ニ付テハ意見書ヲ送り來レリ此段報告ス

又議事法ハ慣例ニ基キ廣島代理人組合規則ニ準據スルコトトセン諸君了承アレ  
滿場異議ナキヲ以テ之ニ可決ス

○議長(松山廣居君)曰 第一號問題第一項ヨリ議事ヲ始メン其進歩ヲ期スル爲メ議案ノ朗讀ハ省略スヘシ

議 題

裁判所吏員ニ於テ代理人ニ對スル稱呼應答ハ普通人民ト差異アルヤ又普通訴訟人ニ對スル待遇如何

○高野一步君曰 先ツ廣島ノ景況ヲ報道セン普通人民ト代理人トノ間ニ於テハ僅ニ差異アリ受付ニ於テ代理人ニ對シテハ「某さん」ト云ヒ普通人民ニ對シテハ「おまへ」ト云フ位ニテ差異ト云ヘハ差異ニテ云フヘキコトナシ一般ノ稱呼ニハ「殿」ヲ付シ「其方」ト云フカ如キ言詞ハ絶テナシ

○信吉五郎君曰 山口地方裁判所ニテ往々代理人ニ對シテ「其方」ト呼フコトアリ代理人ニシテ刑事ノ証人等ニナリ豫審廷等ニ出レハ「其方」ナトノ稱呼ハ普通ニ聞



クガ如シ全体此問題ハ專ラ普通人民ト代言人トノコトニ關スレトモ本員ハ一步ヲ進メテ官吏ト代言人トノ差異ヲモ陳述セン郡書記又ハ警部ノ如キハ証人トシテ出廷シタル者ニ對シテ「あなれ」ト云フカ如キ叮嚀ナル言語ヲ用ヒ同席ナル代言人ニ向ヒテ甚ク横柄ナル言語ヲ使用セリ不權衡ト謂フヘシ

○向阪弘君曰 松江地方裁判所ハ廷丁ノ稱呼ニ於テハ廣島ト同シク格段ノ差異アルチ見ズ書記ハ時ニ普通人民ニ對シ「其方」ト呼フコトアリトモ代言人ニ對シテハ叮嚀ナリ判事ハ認廷ニ於テ普通人民ニ對シテハ「其方」ト云ヒ代言人ニハ稀ニ之ヲ聞クコトアリ松江組合ノ意見ハ一般ニ「其方」ノ稱呼ハ廢センコトヲ望メリ

○藤本直次郎君曰 赤間關ノ裁判所ニ於テハ人民及ヒ代言人ヲ認廷ニ呼ヒ入ルルトキハ庭丁扣所ニ來リ「某さん」ト呼ヒ其間更ニ區別アルチ見ス判事ハ認廷ニ於テ當事者ヲ呼フニ原告被告ノ代名詞ヲ用ヒ書記ハ稍横柄ナルカ如キモ改良ヲ要スルホトノコトモナシ

○信吉五郎君曰 萩ノ區裁判所ニ於テハ刑事ノ言渡ヲ了リテ後廷丁大喝シテ「下れ」ト呼フ甚ク聞苦シ

○向坂弘君曰 松江モ同様改ムルコトヲ要スヘシ  
○藤本直治郎君曰 船木區裁判所ノ事ヲ一言ス可シ訴訟人ニ對シテ此頃迄姓名ヲ呼ヒ棄ニシ剩サヘ其稱呼ニ應ンテ訴所ニ至リ何ノ用事カト問ヘハ「呼んだら來ひ」ト云フ位ニテ甚横柄ナリシカ本員檢事ニ面謁ヲ求メ事情ヲ述ヘ此頃漸ク「殿」ヲ附スルコトナレリ

○高野一步君曰 岩國區裁判所ハ萬中叮嚀ニテ稱呼ニハ「殿」ヲ付シ面商ナレハ「某さん」ト呼フ序ナカラ廣島ニ於テハ近年「下れ」ヲ聞タルコトナシ  
○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ノ書記廷丁ハ人民ニ對シテ呼ヒ棄ニシ代言人ニハ「さん」ヲ附テ公廷ニ於テ判事ハ被告代理人原告代理人ト呼ヘリ刑事ニハ「下れ」ト云フコトアリ

安倍萬太郎君曰 廣島地方裁判所ニ於テハ其差異甚シ之カ實例ヲ舉グレハ或ル部長ハ「某代言人」ト云ヘ或ル部長ハ「安倍ハドーダ」杯ト甚ク横柄ナリ斯ル弊ハ改



ム可シ

○信吉五郎君曰 山口地方裁判所モ同様ナリ

○原田東三郎君曰 廣島區裁判所モ大同小異ナリ此事ハ控訴院長ニ申出テ改良セ  
ンコト望ム全体此等ノ事ハ判事其人ニ由ルモノニシテ概シテ云ヘハ上級裁判所ハ  
町噂ニシテ下級裁判所程横柄ナリ就中廣島地方裁判所ノ或ル部ハ殊ニ甚シ安倍萬  
太郎君ノ説ニ同シ

本問ニ對シテハ左ノ各報告アリタリ

米子組合報告

米子支部ニ於テハ今尙ホ代言人ニ對シテモ其方ト呼ブナリ改良ヲ望ム

尾道組合報告

尾道ノ裁判所ニテハ刑事訴訟ニ於テ被告人ニ腰掛ヲ與ヘス又人民ニ對シテハ其  
氏名ヲ呼ビ棄ニス又刑事ニ於テ判決言渡後廷丁ハ被告人ニ對シテ「下れ」ト付  
ス右等ノ改良ヲ望ム

濱田組合員瀧本駒太郎君報告

代言人ニ就テハ其人ニ依リ待遇ヲ異ニス又一般ニ代言人ハ人民ニ比シテ厚遇セラ  
ル尙人民ニ對シテモ町噂ナリ

○岡崎仁三郎君曰 本會ハ從來ノ例ヲ改メ議事録ヲ印刷シ之ヲ各會員ニ一部ツ、  
配布スルノ例ヲ設ケンコトヲ望ム

此動議ニ對シテハ安倍萬太郎閣議遣信吉五郎高野一步平田卓爾平本希一郎ノ諸  
君ニ於テ賛成反對及ヒ修正アリテ遂ニ左ノ如ク決定セリ

一 議事録ノ要項ヲ委員ニ於テ整理シ之ヲ印刷シテ本會々員即廣島扣訴院管内ノ  
各組合員ニ配布スルコト

二 右ノ印刷費及ヒ遞送費ハ各組合員ノ分頭負擔タルコト

三 今回委員ヲ出席セシメサル組合ニ於テモ前二項ニ從フコト

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第一號問題第二項ノ議事ヲ始メン

議 題



訴所ニ僱吏ノミ詰メ居ル裁判所ニ於テ人民ヨリ差出ス書面等ニ付キ書記ニ通セ  
ス一巳ノ意見ヲ以テ應答處理スルカ如キコトナキヤ

○香川齋君曰 本員ノ見ル所ニテハ廣島各裁判所ニ於テ傭吏ノ意見ヲ以テ書類ヲ  
取捨スル如キコトハナシ

○信吉五郎君曰 山口地方裁判所全區裁判所トモ是等ノ弊ナシ獨リ萩區裁判所ノ  
ミハ傭吏カ田舎者ト見レハ呵リ付ケ書面ヲ差戻ス等ノ事ハ往々是アリ

○向坂弘君曰 松江ノ裁判所ニハ近來此弊ナキニ至レリ

○藤本直治郎君曰 赤間關ノ各裁判所ニテハ受付ニハ他ノ傭吏ヲ用ヒス凡テ廷丁  
ヲ以テ取次ヲ爲サシム面シテ此廷丁ハ能ク其職ヲ盡シ一々書記課ニ送致シ自己ノ  
意見ヲ加フル等ノコトナシ然レトモ船本區裁判所ニテハ尙幾分カ此弊ヲ存セリ

○安倍萬太郎君曰 廣島地方裁判所ニテ兀ト書記局公開ノ頃ハ至極便利ナリシカ  
近頃傭吏ヲ受付所ニ出セシ以來人民ノ差出ス書類カ書式ニ違フタリトテ往々差戻  
スコトアリ又此傭吏ハ勞ヲ厭ヒ數通ノ書類ヲ集メ置キ書記課ニ持チ行ケ爲メ延滯

ノ弊アリト聞ク

○富島豐太郎君曰 竹原區裁判所ノ受付ハ丁寧ニシテ一通毎ニ書記課ニ持參スレ  
トモ顯著ナル誤字間違等ノレハ受付所ニ於テ訂正セシムル位ナリ而シテ訴狀答書等  
ノ文中法律ノ正條ヲ引用記載シアルキハ判事ニ對シ失敬ナリトテ受付ニ於テ之ヲ  
塗抹セシムルノ風アリ

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告シテ曰 濱田ノ裁判所ニテハ毎日午前九時ヨリ十  
一時迄書記自カラ出テ、應接ニ從事シ其他ハ廷丁カー々取次ク尙受付函ヲ置キ之  
ニ書類ヲ投入セシム故ニ弊害不便ヲ感セス

○客員小野隆太郎君議長ノ問ニ答ヘテ曰 福岡ノ裁判所ニテハ此弊ナキモ小倉ノ  
裁判所ニ於テハ此弊アリテ當時改良中ナリ

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第一號問題第三項ニ移ラン

議 題

構成法實施以來裁判ニ付キ急速遲延何レノ感覺アリヤ



○平田卓爾君曰 廣島ノ裁判所ニテハ滯滞ノ感アリ差押ヲ解クニモ一々合議ヲ要シ判決正本全廢本ノ下付送達モ延滞シテ一月以上ニ及ブコトアリ是レ組織上ヨリ來レル弊害ナリ

○信吉五郎君曰 山口ハ廣島ニ反シテ寧ロ抄取ル方ナリ

○向坂弘君曰 松江地方裁判所ハ口頭辨論ハ兎角延滞スレトモ判決ノ場合ニ至レハ迅速ナリ正本ハ三日間位ニハ必ス下付ス元來全廳ニハ八名ノ判事アルモ豫審ニ二名ヲ置キ残り六名・内ニテ所長ハ裁判長ト爲ラサル故之ヲ除クハ純然タル公判々事ハ五名ニテ民刑事ヲ隔日ニ公判ヲ開ク故ニ口頭辨論淹滞スルナリ又區裁判所ハ全体ニ淹滞ス

○藤本直治郎君曰 赤間關支部ニ於テハ判事ハ區裁判所ノ事務ヲモ執ル故大抵午後ニ至ラサレハ支部ヲ組織スルコト能ハス故ニ呼出ノ時間ト開廷迄ノ時間ヲ徒費スルカ如キ感アルモ既ニ審問ニ着手シタル後ハ辨論中徒ラニ延期ヲ許サ、ルヲ以テ大ニ抄取ルヲ覺フ又判決モ兩三日中ニ言渡セリ全區裁判所モ凡テ延滞セズ判

決ハ大抵即決又ハ翌日ニ言渡スナリ

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ニ於テハ別ニ異ナル感ナシ其實況ヲ陳スレハ一名ノ判事ニテ總事務ニ執掌スルヲ以テ民刑訴訟事務ノ外尙登記事務ヲモ扱ハサルヲ得ス而シテ大体ヲ午前ニ刑事午後ニ民事ト定メアルヲ以テ時ニ或ハ民事ノ事務ヲ執ル能ハサルノ日アリ然レトモ是レ判事一名ナルカ故ニ致方ナキナリ

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告シテ曰 濱田ニテハ新法發布ト判事ノ交代トニ因リ大ニ進捗スル方ナリ其判決ノ如キモ大抵兩三日内ニ言渡シ殊ニ區裁判所ハ多ク即決ナリ

○議長(松山廣居君)曰 之レヨリ第一號問題第四項ニ移ラン

議 題

裁判所又ハ檢事ヨリ代言人ニ對シ諮問スルコトアリヤ

○岡崎仁三郎君曰 廣島ニテハ四五年前ニ一度諮問セシユトアリシト記憶ス其後ハ中國狀師會ニ諮問セルノミニテ組合ニ對シテ諮問セシコトナシ







ノ注意ヲ促スヘシ

○高野一步君曰 廣島ニ於テモ山口ト全様ノ弊風アリ殊ニ憲兵ノ如キハ其甚シキモノト云ハサルヘカラス其弊ノ因ル所ヲ推究スルニ警察署ト憲兵トノ間ニ於テ犯罪搜索ノ競争ヲ爲スニ出ツルカ如シ又憲兵ノ如キハ刑事外ノ事柄ニ迄干涉スルコトアリ現ニ或ル証書取戻ノ争ニ於テ五六里ノ道ヲ遠シトセス態々出張シテ本人ノ宅ニ付キ其事件ヲ説諭シタルコトアリ是レ本員ガ親シク觀察シタミノ弊害ニシテ匡正セサルヘカラス

○向阪弘君曰 松江ハ山口ト同様ナレバ別ニ述ヘズ

○岡崎仁三郎君曰 廣島ニ於ケル警察署ノ弊害ハ各地ト大同小異ニシテ殊ニ不都合ナルハ犯罪搜索ノ場合ニ於テ殊更ニ被告人ニ不利益ナル証憑ノミヲ集メ利益ナル証憑ハ却テ之ヲ隠蔽スルノ傾向アリ又往々誘問的ノ訊問ヲ以テ供述ヲ取ル如キハ常ニ本員等ノ見聞スル所ニテ一日モ忽緒ニ付スヘカラス

○信吉五朗君曰 警察ノ執務上ニ因ル弊害ノ重ナルモノハ巡查駐在所ノ制度ニア

リ駐在所ノ巡查ハ久シク一所ニ奉職スルヨリ人民ニ親シミ往々偏頗ノ行爲ヲ施シ自テ人民中親疎ノ別ヲ見ルニ至ル是レ最モ注意スヘキモノナリ

○安倍萬太郎君曰 今一ノ弊害ハ警察官カ被告人ヲ訊問スルニ當リ一ノ事實ヲ設ケ斯クアリシナラント問ヒ被告人ニ於テ否答スルヲ得サラシメ遂ニ曖昧ナル答辨ヲ得ルニ及ンテ直ニニ調書ノ上ニハ明白ノ自白トナリテ出テ又動カスヘカラサル事實トナルコトアリ駐在所制度ニ至リテハ既ニ議論アリシ如ク其弊害多ク甚キハ請托ノ行ハル、ナド實ニ公言スルニ忍ビサルモノアリ又檢事ヨリ巡查ニ犯罪ノ搜查ヲ命スル時ハ常ニ有罪ノ豫斷ヲ以テ搜索スルカ故ニ被告人ノ不利益云フ可カラズ若シ豫審判事ニ於テ之ヲ免訴スルカ如キコトアレバ巡查ノ面目ニ關スルト誤認シ殊更ニ事實ヲ狂グルノ弊アリ又縣廳ニ於テ謀殺或ハ放火ノ如キ重罪犯人ヲ逮捕シタルモハ金錢ヲ以テ之ヲ賞スルヨリシテ巡查ハ其賞與ヲ貪ラント欲シ殊更ニ故殺ヲ誣ヒテ謀殺トナシ失火ヲ誣ヒテ放火トシテ報告スルノ弊アリ亦匡正セサルヘカラス



○藤平直治郎君曰 赤間關地方ニ於テモ種々ノ弊害アリテ殊ニ犯人ヲ捕縛スルニ當リ巡查カ一時ノ忿怒又ハ兇ニ乘シテ犯人ヲ毆打スルコト往々之レアリト聞ク必竟多額ノ給料ヲ與フルヲ得サルヨリ適當ノ人物ヲ採用スル能ハサルコト困ルヘキモ亦上官其人ノ不注意ニモ原因スト思ハル

濱田組合員瀧本駒太郎君報告

或ル地ノ警察署ハ告訴告發ニ必ス書面ヲ以テセシメ又被告人ヲ訊問スルニ當リ拷問ヲ用ユルニアラサル乎ノ感アリ

○各員小野隆太郎君曰 福岡地方モ諸君ノ述ヘラル、如キ同シ弊害アリテ遺憾ナリ

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第一號問題第六項ニ移ラン

議 題

辨護ノ爲メ刑事被告ニ接スルニ付キ不便ヲ感スルコトナキヤ

○信吉五朗君曰 山口岩國ノ監獄者ハ代言人或ハ代言人ノ書生ナレハ名刺ヲ通シ

テ直チニ接見ヲ許シ萩ノ監獄署ニテハ簡潔ナル書面ヲ要ス而シテ接見ノ席ハ法廷ノ構造ニ異ナラス代言人ハ恰モ法官ノ如ク被告人ハ欄干ニ傍フテ立チ居レリ總テ手續上ニハ不便ナク至極可憐ナル方ナリ

○向坂弘君曰 松江モ山口ト同様便利ノ方ナリ事務室ニ至リテ十分間モ待チ居レバ監守立會ニテ接見セシム然レハ接見ノ時立會監守側ヲヨリ常ニ談話ヲ筆記シ居ル故ニ被告人ハ稍ヤ恐レテ抱キ充分任意ニ陳述スル能ハサル感アリ

○高野一步君曰 廣島ノ監獄ニテハ受付ニ至リ刑事被告人ニ接見ヲ乞ヘハ受付カ接見録ル氏名及ヒ事由ヲ記スルノミ官撰ク時ハ撰定書ヲ示スノミニテ接見シ得ル規定ニテ其他ノ手續モ至極便利ナリ

○信吉五朗君曰 被告人ノ所持スル書類ヲ受取ルニハ各地ニ於テ如何ナル取扱振ナルヤチ承知シタシ

○安倍萬太郎君曰 廣島ニテハ豫審決定言渡書判決正本等ノ如キ書類ヲ除ク外ハ裁判所ノ檢閲ヲ受ケ之レカ許可ヲ經サレハ受取ル能ハス



○信吉五郎君曰 山口ニテハ書類ヲ受取ルニ何等ノ制限ナシ亦代言人待遇ニハ煙草盆茶等ヲ出ス

○藤本直治郎君曰 赤間關ノ監獄ニテハ不便甚シ第一ニ接見者ニハ代言人ト普通人トヲ問ハス控所ナシ空シク受付ノ前ニ佇立シ居ラサルヘカラズ第二接見所ハ代言人モ普通人モ同所ナリ第三接見スルニ机ハ勿論懸掛チモ興ヘズ終始起立ノ儘ニテ被告八ト細目ノ格子ヲ隔テ、談話ズルナリ改良ヲ要スル所多シ

○客員小野隆太郎君議長ノ問ニ答ヘテ曰 福岡ノ監獄ハ接見ニ行ケハ待タセザル、コト凡ソ二時間余ノ長キニ及ビ極メテ不潔ナル所ニ於テ面會シ監守其側ニ在テ注意シ居ルモ談話ニ干渉セズ小倉ノ地方ハ殊ニ甚シク椅子モ與ヘズ又姓名ハ呼ヒ棄テナリ

○高野一步君曰 被告人ヨリ借りタル書類ヲ返戻スルニ裁判所ニテエ渡シ得ラル、様ニシタシ態々監獄ニ持チ行ケハ甚タ不便ナリ

濱田組合員瀧本駒太郎君報告

濱田ニテハ不便ナシ

○議長(松山廣居君)曰 第七項ニ移ラン

議 題

各地執達吏ノ狀況并ニ其職務執行ニ付キ人民ノ感觸如何

○信吉五郎君曰 山口地方ニテハ人民ハ執達吏ニ對シ無感覺ト答フル外ナシ執務上ニ付代言人ノ書類ヲ他管轄地ニ送達スルハ一回毎ニ郵便小爲替ヲ以テ送達料ヲ収メルコトハ裁判所ト郵便局ト遠隔ナル場合ニ於テ甚タ困難ナレハ改良シタシ

○藤本直治郎君曰 赤間關ニ於ケル人民ノ感情ハ知ラズ送達賃ハ必スシモ前納スルニ及ハズ便宜ヲ以テ取りニモ來ルナリ是等ハ代言人ノ信用上ヨリ起ルコトニテ至極便利ナリ又赤間關ヨリ船木ヘ送ル迄ノ賃錢ヲ拂ヘハ夫レヨリ先 賃金ハ相手ヨリ納メシメ又ハ直接先方ノ執達吏ニ拂フヲ得ル等便利ナリ

○向坂弘君曰 松江ノ執達吏ハ兩名共裁判所ノ書記ヨリ轉シタルモノニシテ万事都合宜シ共同被告ニシテ一村ニ兩名アル時ハ旅費ハ一名分ノ外之レヲ要セス



○信吉五朗君曰 山口ハ手数料ハ五錢ニシテ旅費ハ往復六錢ノ規定ナリ

○向坂弘君曰 松江ハ手数料五錢旅費ハ往復九錢ノ規定ナリ

○藤本直治郎君曰 赤間關ハ手数料五錢往復旅費六錢ノ規定ナリ

○岡崎仁三郎君曰 人民ノ感觸ハ以前ノ使丁及ヒ市役所吏員ノ時ニ比較シテ執達吏ノ方が不便ナリトツブヤキ居レリ

○客員小野隆太郎君議長ノ問ニ答ヘテ曰 福岡ノ執達吏ハ町噂ナリ小倉ノ執達吏ハ裁判所ノ内ニ在ルヲ以テ稍ヤ威嚴ヲ用ヒ頗ル横柄ナリ執行ノ際重横ナル處置ヲ爲スノ風聞モアリ家屋明ケ渡ノ執行ノ場合ニ人ノ居住スルニモ係ラス戸ヲ外ヨリ釘付シタルコモアリシ送達債ハ同村内タリトモ其人數ニ應ジ旅費手數ハ取リ居タリシカ近來ハ之ヲ改メタリ而シテ小倉ニハ常ニ三分ノ往復旅費ヲ豫納セシメ置クノ定メニテ甚タ不便ナリ

○客員小野隆太郎君曰 福岡ニテハ手数料ハ五錢ニシテ往復ノ旅費拾二錢ナリ  
濱田組合員瀧本駒太郎君執告

濱田ノ執達吏ニ於テハ取扱上時ニ或ハ違法ノ處置アリカ如キモ是レ法律ノ不取調ト事務ノ不慣コ因ルモノナルヘキヲ以テ別ニ匡正ヲ要スル程ノコトモナシ

○議長(松山廣居君)曰 第八項ニ移ラン  
議 題

執達吏ノ職務取扱上ニ付キ匡正スヘキ事項アルヤ否

○香川齋君曰 報達吏ノ代理者ニ於テ往々不道理ノ行爲アリ財産取調ノ際ニ於テ「其方」杯ト云ヒ恰カモ刑争ノ被告人ニ接スル口氣アリ不都合ト云フヘシ

○信吉五朗君曰 此事ニ干シテハ報達吏ニ可成失策ヲ少クセヨト云フ外他ニ策ナカラン

○向坂弘君曰 松江ニ於テハ差當リ見聞セズ

○藤本直治郎君曰 信吉君ノ意見ニ全シ

○議長(松山廣居君)曰 第九項ハ發題者ニ尋テタキコトアレハ跡ニ廻ハシ今日ハ閉會スヘシ



維時午後三時十七分

第三日 七月廿二日

開會 午前九時五十分

出席員左ノ如シ

廣島組合員

松山 廣居君

渡邊又三郎君

高野一步君

長屋 謙二君

香川 齋君

富島豊太郎君

原田 東三郎君

岡崎仁三郎君

岡 謙藏君

安倍 萬太郎君

高橋嘉一郎君

山口組合員

富家 平八郎君

信吉五郎君

松江組合員

向坂 弘君

赤間關組合員

藤本 直治郎君

議長松山廣居君病氣ニ付岡崎仁三郎君議長ヲ代理ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 只今ヨリ開會セシ

第一號議案第九項ハ發題者ヨリ取消シタリ

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 同第二號議案第一項ニ移ラン

議 題

民事訴訟法實施以來訴訟人ニ於テ出訴及ヒ強制執行ヲ見合ハスカ如キ傾向アラサルヤ

○信吉五郎君曰 山口地方ニ於テハ出訴ハ從前ニ比シ大ニ便利ヲ得タリ故ニ見合スカ如キ事ナシ又強制執行ニ付テハ多クノ日子ヲ費スカ爲メ稍ヤ不便ヲ感シ居レト之カ爲メニ見合ス迄至ラス

○藤本直治郎君曰 赤間關ニ於テハ出訴ヲ見合 如キナキモ強制執行ハ多分ノ



日子ト費用ヲ要スルヲ以テ爲メニ不満足ナル和解ニ終ルコトアリ即チ執行ヲ見合  
ス模様アリ

○向坂弘君曰 松江地方ハ訴訟モ強制執行モ疎カラ之ヲ見合フ傾向ナリ之レ費用  
多キヲ要スルニ因ルナラン

○瀧本駒太郎君曰 濱田地方ハ赤間關同様ナリ然レモ他ノ原因アリテ本年春ノ頃  
ニ至リテ訴訟ハ少數ナリシ

○安倍万太郎君曰 廣島ハ出訴ハ従前ヨリモ増加セリ是勸解ヲ廢シタルヨリ生ス  
ル結果ナラン昨年當地方裁判所ノ統計ハ百五六十件ナリシカ本年ハ七月迄二百二  
拾件許ニ達セリ強制執行ニ付テハ藤本君ト同感又傳聞スル處ニ依レハ尾道福山モ  
共ニ出訴ハ増加セリ其原因ハ新法ニ於テ出訴前ノ假差押容易ナルヨリ出訴期限ノ  
經過セシモノ及ヒ見込ナキ事件ニテモ假差押ヲ以テ威赫的ニ請求シ此假差押ヨリ  
シテ終ニ本訴訟ニ至ルト聞ク

○信吉五郎君曰 強制執行ノ法規ハ頗ル煩雜ナリ然レモ今日ニ於テ之レヲ改止ス

ヘキニアラス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二號問題第二項ニ移ラン

議 題

裁判所ニ依リ取扱振ノ慣習例式アリ(書式文例ヲ控所等ニ揭示スルモノヲ除キ)  
之ニ違ヒタル書面等ハ事ニ害ナキト法律規則ニ抵触セサルニ拘ハラヌ受理セサ  
ルコトハナキヤ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ニ於テハ書式ヲ定メサルノミナラス本問ノ如キ  
弊ナシ

○向坂弘君曰 松江地方裁判所ハ濱田ニ同シ區裁判所ニ於テハ書式アレモ必ス之  
ニ準據スルヲ要セス

○信吉五郎君曰 山口ノ裁判所モ濱田ニ同シ

○原田東三郎君曰 廣島區裁判所ニハ訴狀ノ形式ヲ設ケ之ニ違フトキハ普通訴訟  
人ニ對シテハ可成的ニ準據セシムルモ代人ハ之レニ拘束セラレヌ而シテ其形



式ハ本員ノ見ル處ニテハ甚タ不完全ナルモノト看認ム

○藤本直治郎君曰 赤間關ニテハ支部區裁判所トモ書式ナシ法律ニ違反セサルモノハ悉ク受理ス代書人ノ代書スル書面ハ頗ル不規律ナルモ尙之ヲ受理セリ船木區裁判所モ書式ナシ

○香川齋君曰 舊法ノ時ハ訴狀答書等ニ表紙ヲ付セシカ新法發付后各地ノ取扱振ハ如何ナリ居ルヤ

○藤本直治郎君曰 赤間關ニテハ表紙ヲ付スルハ任意ナリ船木區裁判所ニ於テハ之ヲ要スレバ訴訟費用ニ算入セス

○信吉五朗君曰 山口ノ裁判所ニ於テハ表紙ヲ付スルコトヲ命セサレトモ訴訟人ハ入体之ヲ付セリ尤モ訴訟費用ニ算入セス

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所モ山口ニ同シ

○向坂弘君曰 松江地方裁判所ハ赤間關ト同様ナリ

○原田東三郎君曰 廣島地方裁判所ハ表紙ノ有無ハ任意ニシテ區裁判所ニ之ヲ付

セサルヲ常トス然レモ表紙アルモ妨ケナシ尤モ費用ニ算入セス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二號問題第三項ニ移ラン

議 題

訴所ニ書記課ヲ置キ直接ニ受付ヲ爲スト否ヲサルトニ依リ其便否如何

○信吉五郎君曰 山口ノ各裁判所ハ訴所ニ僱吏ヲ置ケル別段ニ不便ヲ感セス長崎扣訴院管内ノ各裁判所受付ノ模様ヲ見ルニ受付所ニハ出頭簿受付簿ヲ刑ニ分チ都合四冊ヲ備ヘ出頭人ニ於テ各之ニ氏名ヲ記入シ以テ出頭届及出頭受書ニ代フ故事務ハ排取り居レリ便利ノ方法ナレハ各地モ之ニ倣ヒタキモノナリ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ハ毎日午前九時ヨリ全十一時迄書記從來ノ訴所今ノ書記應接所ニ出席シテ事務ヲ採リ其他退廳迄ノ時間ハ受付函ヲ置キ之ニ投入セシメ又ハ廷丁受付ヲ爲シ書記課ハ二階ニ在リ此定メニテ別ニ不便ヲ感セス

○藤本直治郎君曰 書記課ハ公開スル方便利ナリ然レモ赤間關ノ裁判所ハ一公廷毎ニ受付アリ廷丁之ニ居リ一々書記課ニ取次クカ故ニ受付トテ別ニ事務ヲ取ル處



ニアラス故ニ受付へ訴訟人ヲ呼フコトナク廷丁自ラ人民控所ニ來リテ訴訟人ニ接シ  
書記用アレハ受付迄呼ヒ入レ訴訟人ヨリ面會ヲ乞へハ書記直チニ受付ニ來ル故ニ  
公開ト同シク便利ナリ

○向坂弘君曰 松江ハ受付ニハ僱吏廷丁出席シテ書類ヲ取次キ別ニ其意見ヲ以テ  
取捨スルコトナシ此定ニテ不便ナリト思ハス

○藤本直治郎君曰 赤馬關ニテハ代理人ハ必スシモ請書ヲ要セス次ノ開廷日ヲ告  
グルトキ之ヲ期日ト認ムヘシトノ旨ヲ以テセリ小倉ノ裁判所モ同様ナリ

○香川齋君曰 書記課ハ公開スルヲ便トス廣島ノ裁判所ニ於テ僱吏カ書類ヲ受付  
所ニ集メテ一時ニ五六通宛持テ運フ等ノコトアリテ甚タ不都合ナリ畢意備吏ニハ種  
々ノ雜務アリテ茲ニ至ルモノナリ故ニ書記課ハ必ラス公開セラレンコト望ム

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二號問題第四項ニ移ラン

議 題

口頭ヲ以テ訴訟ヲ爲スモノ僅少ナルカ如シ其事由如何

○信吉五朗君曰 口頭訴訟ヲ爲スモノハ資力ナキカ或ハ期日ニ切迫訴狀ヲ認ムル  
ノ爲ナキ等ニシテ若シ書記カ口頭訴訟ニ遭へハ其半數ヲ厭ヒ代書人ニ訴狀ヲ認  
メシメヌコトヲ論シ多クハ之ヲ承諾スルヲ以テナラント推考ス

○藤本直治郎君曰 赤馬關支部ニ於テハ絶テナシ是レ代理人ハ訴狀ヲ認ムル手ヲ  
有シナカラ其必要ナキニ書記ナ煩ハスモ氣ノ毒ナリト思フニ因ルト普通人民ハ法  
律上ノ規定ヲ知ラサルニ因ルナラン

○向坂弘君曰 松江地方ハ赤馬關ト同様ナリ

○客員小野隆太郎君議長ノ問ニ答ヘテ曰 福岡モ藤本君ノ陳述スル處ト異ナル所  
ナシ

○瀨本駒太郎君曰 濱田地方モ見聞シタルコトナシ其然ル所以ハ藤本君ノ述フル處  
ノ如キ事由アルニ因ルナラン

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二號問題ノ第五項ニ移ラン

議 題



相手方二人以上ナルモ訴訟副本ハ一通ニテ足レリトスル裁判所アリ各地ノ取扱振弁ニ之ニ付テノ意見如何

○安倍方太郎君此問題ヲ説明シテ曰 廣島地方裁判所ニテ數名ヲ相手取ル訴訟ノ場合ニ於テ相手方ノ人數ニ應シテ書面ヲ作ラシム是レ欠席判決ノ場合ニ必要ナリト云フニ依レリ扣訴院ハ一市區町村内ニ於ケル共同被告ノ場合ニハ一通ニテ足レトセリ故ニ各地ノ模倣及ヒ之レニ對スル諸君ノ意見ヲ求ムルモノナリ

○信吉五朗君曰 山口地方裁判所ノ實例ハ廣島地方裁判所ト同シ其當テ得タルモノト認ム蓋シ欠席判決ヲ受クルニ必要ナレハナリ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ實例ハ住所ノ同シキモ各通ヲ作ラシム是權利拘束ヲ始ムル等ノ必要トシテ至當ノ取扱方ト認ム然レモ此等ノコトハ裁判所カ敢テ干涉マ可キモノニ非スト思考ス蓋シ訴訟人ノ利益ニ關スルモノナレハナリ

○向坂弘君曰 松江ニテハ訴狀答辯書トモ各通ヲ作ラシム此事ニ付テハ裁判所ヨリ組合ニ諮問シタルコトアリ組合ハ各通ヲ可トスルコトニ決シ其旨ヲ答ヘタリ

○藤本直治郎君曰 赤馬關及ヒ船木共ニ各通ヲ要ストセリ是欠席判決ノ場合或ハ權利拘束等ニ必要ナリ然レモ是レハ此レ正而法律上ノコトニシテ實際ニ於テハ便法ヲ設ケタシ其方法ハ一區域内ノ共同被告ニハ一通ヲ送リテ同覽セシムレハ可ナラント考フ

○香川齋君曰 藤本君ノ意見ヲ賛成ス

○高橋嘉一郎君曰 各通トシテ送ルハ法律上正當ノ意見ニシテ權利拘束ニ影響スルモノナレハ法ヲ枉ケテ便法ヲ取ルヘキモノニアラス蓋シ訴訟法第四十九條第百卅七條ニ推觸スルモノナレハナリ

○富島豊太郎君曰 竹原裁判所ハ何レノ場合ニテモ一通ニテ足レリ實際上一通ニテ不便ヲ感シタルコトナシ然レモ訴訟法上ノ精神ヨリスレハ高橋君ノ說ニ賛成ス議長松山廣居君出席ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 只今松山議長出席セシモ引續ノ問題ハ議長松山君ノ求メニ依リ自分ニ於テ尙代理ヲ繼續ス可シ



○高野一步君曰 高橋君ニ賛成ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 議論數個ニ別レタレハ採決上ノ便利ヲ以テ問題ヲ

左ノ四点ニ分テ決議スルコトセン

一 訴狀ハ對手者ノ數ニ應シテ各通ヲ作ルヘキモノナルヤ

二 答辨書モ此点ニ付テハ訴狀ト同一ニス可キヤ

三 各通ヲ作ル可キモノナリトセハ當事者ノ求ニ依リ他ニ便法ハナキヤ

四 他ニ便法アリトセハ豫シメ裁判所ヘ請願シ置クヘキモノナルヤ

○高橋嘉一郎君曰 訴狀ハ各通ニ作ルヲ要ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 高橋嘉一郎君ノ説ニ異議ナキヲ以テ第一項ハ此説ニ決ス可シ

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二点ニ就テ議セラレヨ

○瀧本駒太郎君曰 答辨書ハ各通ヲ作ルヲ要セス其理由ハ訴狀ニ要スルカ如キ必須ノコトナケレハナリ

○高野一步君曰 答辨書モ訴狀ト同シク各通ヲ作ルヲ要ス法律問題トシテ論スレハ民事訴訟法第百八條ヲ參照スルモ明ナラン

○信吉五朗君曰 第百八條ヲ引用スルハ穩當ナラス瀧本駒太郎君ノ説ヲ賛成ス

○向阪弘君曰 高野一步君ノ説ヲ賛成ス

○高野一步君曰 第百八條ノ文ニヨリテ見ルモ當事者ト稱スルハ必ス一人ノミノ代名詞ニアラス準備書面ヲ交換スルハ法ノ命スル所ナルヲミナラス口頭辨論ヲナスニモ必要ナリ故ニ是非トモ各人ニ送付セサルヘカラス

○安倍萬太郎君曰 高野一步君ニ賛成ス

議長休憩ヲ告ク

時ニ正午十二時

議長開會ヲ告ク時ニ午后零時五十分

○藤本直治郎君曰 答辨書ハ一通ニテ十分ナリ

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 粗ホ論旨モ盡キタレハ採決セン瀧本君ノ各通作ル



ニ及ハストノ説ニ同意者ハ起立アレ

起立 多數

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 瀧本君ノ説ハ多數ナルヲ以テ之レニ決ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 次ニ第三点ニ付テ議セラレヨ

○瀧本駒太郎君曰 既ニ訴訟法上ノ効果ヲ生セシムルコハ各通ヲ要ス故他ニ便法

アル筈ナシ

○高橋嘉一郎君曰 瀧本駒太郎君ニ賛成ス

○松山廣居君瀧本駒太郎君ニ質問シテ曰 第一審第二審モ相通シテナルヤ

○瀧本駒太郎君曰 然リ

○藤本直治郎君曰 他ニ便法アリ即チ起訴者ニ於テ望ムルハ一市區町村等ノ一區

域内ニ在ル共同被告ニハ回覽セシムル法ヲ立ツレハ可ナリ權利拘束ノ効果有無ハ

法律上ノ問題ナリ爲メニ欠席判決ヲ受ク可カラサル如キ不便ニ到着スルハ實ニ十

中ノ一二ナランノ稀有ノ不便ノ爲メニ莫大ノ利益ヲ捨ツベカラズ

○高野一步君曰 藤本君ニ賛成ス當事者ノ望ナレハ之レヲ許シテ可ナリ

○松山廣居君曰 藤本直治郎君ニ賛成ス

○瀧本駒太郎君曰 當事者ニ於テ自カラ望ムナレハ許スモ可ナリ何トナレハ若シ

之レカ爲メニ十分ノ効果ヲ生セストスルモ夫レハ當事者自分ノ勝手ナレハナリ故

ニ前説ヲ取消ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 本問題ハ別ニ異議ナキヲ以テ當事者ノ求メニヨリ

便法アリトスルニ決ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 次ニ第四点ニ就テ議セラレヨ

○藤本直治郎君曰 廣島控訴院ニ請願シテ各裁判所ニ達シ貴ヒタシ

○瀧本駒太郎君曰 請願スルニ及フマシ控訴院長ニ照會シ其旨ヲ各裁判所ニ通シ

貴ヘハ可ナリ

○高橋嘉一郎君曰 本會ノ結果ヲ報告スル書面ニ附箋ヲ爲シ可成其方針ニ進ム様

ニシテ貴ヒタシ



○松山廣居君曰 法律ノ解釋ハ各裁判所トモ不羈獨立ナレハ上級裁判所ヨリ下級裁判所ニ達スルモ其効ナカラシ故ニ嚴正ナル手續ヲ以テ各組合ヨリ各其裁判所ニ請願スルコトセシ

○富家平八郎君曰 松山廣居君ノ説ヲ賛成ス

○長屋謙二君曰 同覽ノ便利ヲ求ムルハ要スルニ十分ノ効果ナキコトヲ承諾シテ求ムルモノナレハ別ニ請願スルノ必要ナシ

○高野一步君曰 各組合ノ意見ニテ各其裁判所ニ協議セシコトヲ望ム

○藤本直治郎君曰 同覽ノ法ヲ立ルト云フモ矢張裁判所ヨリ各自廻覽ス可シトノ附箋ニテモ付シ賞ハサレハ便法トナラサル故請願ノ必要ヲ生ズ而シテ其方法ハ松山君ニ賛成ス

○香川齋君曰 瀧本駒太郎君ノ説ニ賛成ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 瀧本君ノ説ニ賛成者ハ起立アレ

起立 四名

又曰松山君ノ説ニ賛成者ハ起立ノレ

起立 四名

同數アルヲ以テ議長代理岡崎仁三郎君ハ松山君ノ説ニ同意之レニ決ス  
岡崎仁三郎君議長席ヲ松山廣居君ニ譲ル

○議長(松山廣居君)曰 第二號問題第六項ニ移ラン

議 題

民事訴訟法實施以來代言人ニ事件ヲ依頼スルモノ、増減如何

○富家平八郎君曰 山口地方裁判所ニテハ代言人ニ依頼スル訴訟事件ハ増加セリ

○瀧本駒太郎君曰 濱田モ山口ニ同シ

○向坂弘君曰 松江モ山口ニ同シ

○香川齋君曰 廣島モ山口ニ全シ

○高野一步君曰 區裁判所ノミアル所ハ代言人ノ受任事件減少ノ傾向アリ是レ代人ノ訟廷ニ立ツコトヲ禁セサルニ由ルナラン



○藤本直治郎君曰 赤馬關ニテモ増加セリ

本問ニ對シテ左ノ各報告アリ

尾道組合

尾道ニテハ増加セリ

米子組合

米子ニテハ大ニ減少セリ

○客員小野隆太郎君議長ノ問ニ答ヘテ曰 福岡地方裁判所ニテハ増加セルニ區裁

判所ハ減少セリ小倉ハ従前ニ異ナラス

○議長(松山廣居君)曰 第二號問題第七項ニ移ラン

議 題

各地代書代人ノ狀況并ニ民事訴訟法實施ニ付キ代書代人ノ受ケタル影響如何

○香川齋君曰 代書人ノ職業ハ減少セリ其原因ハ簡答ナルニテ足ルニ因ルナ

ラン代人ニ至テハ増加シタルカ如シ

○富家平八郎君曰 山口モ廣島ト同様ナリ

○向坂弘君曰 松江ニテハ代書人ノ職業著シク減少セリ代人モ先減少ノ傾向ナリ

○藤本直治郎君曰 赤馬關ニテハ代書人代人ノ事業増加セリ是レ新法實施后人民

ニ於テ手續ニ通セス爲メニ代書人代人ニ依頼スルモノ多キニ因ル

○富島豊太郎君曰 竹原ハ赤馬關ニ全シ

○議長(松山廣居君)曰 第二號問題第八項ニ移ラン

議 題

各區裁判所ニ於テ代人ヲ業トスル者ニ訴訟代理ヲ許サル、ヤ否

○香川齋君曰 廣島區裁判所ハ多クハ許可セス

○瀧本駒太郎君曰 濱田區裁判所ハ代人カ親族又ハ雇人等ノ名ヲ以テスレハ之ヲ

許スコモアリ又然ラサルコモアリ

○富家平八郎君曰 山口萩師區裁判所ハ許サス徳山區裁判所ハ許ス岩國區裁判所

ハ格別入ケ問敷云ハス



○藤本直治郎君曰 赤馬關區裁判所ハ許ス是レ或ハ裁判所ニ於テ其人ノ常務ヲ知

ラサルニ因ルナラン

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ハ親戚又ハ雇人ニアラストモ代人ヲ許ス

○議長(松山廣居君)曰 第一號問題第九項ニ移ラン

議 題

合議裁判所ニ於テ兼代人ニテ訴訟ヲ爲シ又ハ受クルコトヲ得セシムル裁判所アリ各地ニ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○香川齋君曰 訴訟法ニ於テ代人ハ許サレド兼代人ハ許シテ差支ナシト思フ

○藤本直治郎君曰 赤馬關ニテハ許サス而シテ又法律ニ於テ許可ス可キモノニアラスト思考ス何トナレハ共同訴訟人ト雖モ其權利義務ヲ代理スルニ於テハ普通ノ代人ト異ナラサレハ法律ニ特別ノ規定ナキ限りハ之ヲ許スヘカラス

○澁本駒太郎君曰 濱田ニ於テハ許スコトモアレド是ハ不當ナリト考フ其理由ハ藤本君ニ同シ

○富家平八郎君曰 山口地方裁判所ニテハ兼代人ヲ許サス是レハ至當ナリト考フ

○向坂弘君曰 松江ニ於ケル實例ハ知ラズ意見ハ藤本君ニ全シ

○高野一歩君曰 全体ハ藤本君ニ賛成ナレド實際ニ不便少ナカラサレハ何トカ便法ヲ設ケタキモノナリ

○客員小野隆太郎君議長ノ問ニ答ヘテ曰 福岡小倉ニテハ現ニ許可シ居レリ

○議長(松山廣居君)曰 藤本直治郎君ノ説ニ賛成者ハ起立アレ

起立 多數

藤本直治郎君ノ説ニ可決ス

○議長(松山廣居君)曰 第二號問題第十項ニ移ラン

議 題

兼總代人ヨリ復任條件ナクシテ訴訟代理人ニ依頼スルコト得テセシムル裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ是ニ付テノ意見如何

○高橋嘉一郎君曰 既ニ兼代人ヲ許サスト決スレハ本問題ノ如キ場合ナケレハ本



問ヲ廢棄セシテ望ム

○澁本駒太郎君曰 高橋君ノ意見ニ賛成ス

藤本直治郎向坂弘ノ二君モ高橋嘉一郎君ノ意見ニ賛成セリ

○議長(松山廣居君)曰 本問ハ廢棄ス可シトノ説アリテ異議ナケレハ本問ヲ廢棄スルコトニ決シ是レニテ本日ハ閉會ス可シ

時ニ午后二時十五分

第四日 七月廿三日

開會 午前十時

出席員左ノ如シ

廣島組合員

平本希一郎君 岡崎仁三郎君 富島豊太郎君

香川 齋君 岡 謙造君 高野 一步君

松山 廣居君 安倍萬太郎君

松江組合員

向坂 弘君

赤間關組合員

藤本直治郎君

山口組合員

富家平八郎君 信吉五朗君

濱田組合員

瀧本駒太郎君

○議長(松山廣居君)曰 本日ハ第二號問題第十一項ヨリ始メ

議 題

訴訟書類ヲ郵送スルハ當事者ノ請求ニ依ルカ將タ書記課ノ撰擇ニ出ル乎其取扱手續ニ付キ各地ノ模様如何

○瀧本駒太郎君曰 濱田ハ未タ郵送法ヲ行ハス是レ未タ郵便局トノ協議調ハサル



ニ因ルト聞ク

○信吉五朗君曰

山口ニ於テハ未タ訴訟人ヨリ書記課へ郵送ヲ依頼シタルコトナシ又書記課モ職權ヲ以テ郵送セシユトナシ

○向坂弘君曰

松江ニ於テハ當事者ノ請求アレハ郵送ス

○藤本直治郎君曰

馬關ニ於テハ未タ郵便送達ヲ實行セズ

○岡謙藏君曰

廣島區及地方裁判所ニ於テハ訴訟人ノ請求アレハ郵送シ居レリ

○議長(松山廣居君)曰

第十二項問題ニ移ラン

議 題

判決正本ノ送達ニ遲延ノ感ナキヤ否

○香川齋君曰

本問題ハ第一號問題第三項ニ於テ既ニ議了シタレハ重複ニ渉ルヲ以テ廢棄センヲ希望ス

○議長(松山廣居君)曰

滿場異議ナケレハ香川君ノ説ノ如ク本題ヲ廢棄スベシ是ヨリ第二號問題第十三項ニ移ラン

議 題

調書原本ノ申請書ハ辨論數日ニ涉リ一纏メトナリタル調書ト雖トモ各日ニ付各

一通ノ申請書ヲ要スル裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ是ニ付テノ意見如何

○瀧本駒太郎君曰

一纏メトナリタルモノハ一通ノ申請書ニテ可ナリト思フ併シ濱田ニハ未ダ實例ナシ

○藤本直治郎君曰

赤間關ニハ未ダ實例ナシ此問題ハ調書ノ原本ヲ請求スルニ印紙ヲ貼用セル申請書ヲ要スル者ト考フルヨリ起リタルナラン然レモ本員ノ意見ニ

依レハ別ニ申請書ヲ要セス請求書ニテ可ナリト信ス何トナレハ訴訟法上ニ申立又

ハ申請ヲ要スル規定ナク又申請ト云ヘハ之ニ對スル決定ナカル可ラサルニ此請求

ハ書記課ニ爲スナリ然ラハ裁判權ナキ書記課ニ對シテ申請ヲ要セサルヲ勿論ナリ

○信吉五朗向坂弘香川齋ノ三君曰

藤本君ニ賛成

○瀧本駒太郎君曰

本員ハ民事訴訟法第二百二十四條第一項ノ末文ニ「付與セシムルコトヲ得」トシテ請求アレハ書記ハ當然付與スヘキ規定アルニ氣付カサリシ



故ニ前説申請書ト云ヒシヲ取消更ニ藤本君ノ説ニ賛成セシ

○議長(松山廣居君)曰 他ニ異論ナキヲ以テ藤本君ノ説ニ決ス是ヨリ第二號第十四項ニ移ラン

議 題

一通ノ判決止本送達申立ニ依リ數多ノ當事者ニ判決止本ノ送達ヲ受クルヲ得ルヤ否各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○瀨本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ニテハ一通ノ申立書ニテ原被告双方ハ一通宛送達ス又一方ノ當事者數人ナルモ矢張一通ナリ之ニ對スル意見ハ實例ヲ正當ナリト考フ蓋シ法ノ精神ニ徴シテ明カナリ

○信吉五郎君曰 山口ノ裁判所ニテハ正本ノ各一通毎ニ一通ノ申立書ヲ要シ印紙モ各通毎ニ貼用スルノ實例ニテ此實例ハ違法ナリト思考ス原被告間ナレハ當事者ノ人數ニ應シテ何通ヲ求ムルモ一通ノ申立書ニテ送達セサルハカラス訴訟印紙法ヲ見ルニ執行力アル正本ノ下付ニハ各通ニ印紙ヲ要スル明文アルモ判決正本ニハ

此明文ナキヲ見テモ知ルヘシ

○香川齋君曰 信吉五郎君ニ賛成ス

○向坂弘君曰 松江ノ裁判所ハ一通ノ申立書ニテ原被告双方并ニ各當事者ニ一通宛ヲ付與ス意見ハ信吉君ニ同シ

○藤本直治郎君曰 赤間關ニ於テハ毎ニ勝訴者ニ於テ相手方ヘ正本送達ヲ求メ自分ヘハ謄本ノ下付ヲ求ムルナリ船木區裁判所ニテハ一通ノ申立ニテ原被告双方ニ一通宛送達ス之ニ對スル意見ハ信吉君ニ全シ

○議長(松山廣居君)曰 別ニ異議者ナケレハ信吉君ノ説ニ決シ第二號問題第十五項ニ移ラン

議 題

訴訟費用確定ノ申請ハ執行力アル正本ノ下付ノ前後ヲ問ハス申請スルヲ得ルヤ各地ノ取扱振并ニ其意見如何

○瀨本駒太郎君曰 濱田ニテハ未タ實例ナシ本員ノ意見ハ心ス正本下付ノ後ナル



ヲ要スト信ス其理由ハ其正本ヲ得タル後ニアラサレハ費用ノ確定ヲ爲スコカラサレバナリ

○香川齋君曰 瀧本君ノ意見ニ賛成ス

○信吉五朗君曰 山口ニ於テハ未タ實例ナキモ本員ノ意見ハ正本送達後ハ勿論送達前ニテモ此決定ヲ受クルヲ得ルモノト信ス何トナレハ正本ノ下付ヲ得タル後ハ執行ノ爲メニ必要アリ又執行ヲ爲スニ至ラサルモ和解示談ヲ爲ス爲メニ費用額ヲ確定スルノ必要アレハ送達前ニテモ決定ヲ與ヘサルヘカズ而シテ法律別ニ之レカ制限ナキ以上ハ此必要ノ爲メニ決定ヲ與フルハ法ノ精神ナラン

○向坂弘君曰 信吉君ノ說ヲ凡テ賛成ス

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ニテハ執行正本下付前ニアラサレハ費用ノ決定ヲ與ヘズ故ニ費用決定后ニアラサレハ執行正本下付セス

○藤本直治郎君曰 赤間關ニ於テハ實例ヲ聞カス本員ノ意見ハ執行正本ヲ得タル後ニアラサレハ決定シ得ヘキモノニアラズト信ス民事訴訟法第八十四條ニ執行シ

得ヘキ裁判トアリ而シテ其裁判ノ執行シ得ヘキハ執行正本ヲ得タル後ナルヲ勿論ナレハナリ

○平田卓爾君曰 藤本君ノ說ニ賛成ス

○議長(松山廣居君)曰 信吉君ノ執行力正本下付ノ前後ヲ問ハス申請シテ決定シ得ルト云フ說ニ同意ノ諸君ハ起立アレ

起立 六名

瀧本駒太郎君ノ執行力アル正本下付ノ後ニアラサレハ申請スルヲ得スト云フ說ニ同意ノ諸君ハ起立アレ

起立 五名

○議長(松山廣居君)曰 多數ヲ以テ信吉君ノ說ニ可決シ次ニ第二號問題第十六項ニ移ラン

議題

欠席判決ニ對スル故障ニ付キ事由ノ疏明ヲ要スルヤ各地ノ取扱振并ニ之ニ對ス



ル意見如何

○向坂弘君曰 適法ノ式ヲ以テスルト故障期間内ニ於テサヘスレハ十分ニテ松江ノ裁判所ハ別ニ事由ノ疏明ヲ必要トセス

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ニテハ事由ノ疏明ヲ要セス併シナカラ之レハ不當ニシテ必ス疏明セサルヘカラサルコト、信ス然ラサレハ口頭辨論ヲ開ク可キ規定ハ遂ニ用テ爲サ、ル徒法トナラン

○信吉五朗君曰 山口裁判所ニテハ故障ノ申立ハ容易ニ採用シ欠席ノ事由ヲ疏明セシメス而シテ本員ハ此實例ヲ正當ト信ス何トナレハ次席者ニハ費用ヲ負擔セシムル制裁アレハ法律ハ疏明ヲ要セサル精神ナルヲ知ルヘシ

○藤本直治郎君曰 赤間關裁判所ニテハ本員ハ實驗ナキモ疏明ヲ要スト聞ク果ソ然ラハ之ハ正當ノコトナリト信ス何トナレハ訴訟法上故障ニ付テ口頭辨論ヲ開キ適法ト不適法トヲ鑑別スル規定アルヲ見テモ事由ヲ要スルヲ見ルヘク又費用サハ出セハ期日ヲ怠ルモ他ニ制裁ナシトノ理由モナケレハナリ小倉支部ニテハ疏明ヲ要

セス裁判長合議モセスシテ直ニ本案ニ入ルナリ

○平田卓爾君曰 事由ノ疏明ハ要セサルヘシ又法律之ヲ命スル明文ナシ又疏明ヲ要ストセハ其程度ヲ知ルヘカラズ

○岡崎仁三郎君曰 瀧本君ノ疏明ヲ要スト云フハ其程度如何

○瀧本駒太郎君曰 裁判所ヲシテ過怠ニアラサリシコトノ直實ナルヘシト信セシムルニ至レハ可ナリ

○岡崎仁三郎君曰 本員ハ疏明ト云フヲ好マヌ疏明ノ語ハ訴訟法上特別ニ使用セルヲ以テ明クナキ場合ニ之ヲ用ユルヲ得ヌ故ニ事由陳辨スルヲ以テ足レリト信ス

○瀧本駒太郎君曰 本員ノ疏明ト云フモ矢張陳辨ノ意ナリ故ニ前説ノ疏明ト云フハ語弊アルヲ以テ之ヲ取消シテ岡崎君ニ賛成スルコトトセン

○議長(松山廣居君)曰 瀧本君ハ前説ヲ取消シタレハ岡崎君ノ説ニ全意ノ諸君ハ起立アレ

起立 六名



平田卓爾君ノ説ニ起立アレ

起立 五名

○議長(松山廣居君)曰 多數ヲ以テ岡崎君ノ説ニ即チ事由ノ陳辨ヲ要ストノ説ニ

決ス

議長休憩ヲ告ク時ニ午後零時五分

更ニ議事ヲ始ム時ニ午後零時三十分

○議長(松山廣居君)曰 第二號問題第十七項ニ移ラン

議 題

上告裁判所ニ於テ原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判所へ移送シタル場合ニ當リ其移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ口頭辨論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼ビ出ス裁判所アリ將タ否ヲサルアリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○信吉五朗君曰 山口地方裁判所ニ於テハ訴訟法實施後實例ナシ斯ル場合ハ東京控訴院ノ實例ハ大審院ヨリ移送セラル、モ起訴者即チ原告ヨリ審判ヲ願フ迄訴訟

ニ着手セス而シテ本員ハ此實例ヲ賛成ス而シテ其審判願ノ期間ヲ法律ニテ定メサルハ法ノ欠典ト云ハサルヘカラス

○平田卓爾君曰 廣島控訴院ニ於テハ四年前大審院ヨリ移送セラレ本年ニ至ル迄其儘ナリシカ原告ヨリ審判ヲ願ヒテ始メテ開廷セラレタリ左レハ審判願ヲ要スルモノト思ハル又廣島控訴院ヨリ松江山口ノ兩地方裁判所へ移送シタルニ今ニ其儘ナリ左レハ是等裁判所モ審判願ヲ待ツナルヘシ大坂控訴院ニテモ審判願ヲ要ス若シ當事者カ一二ヶ月モ其儘ニ捨テ置カハ之ヲ呼出シテ催促スルノ實例ナリ然レモ本員ノ意見ハ此等ノ實例ハ皆不當ナリ何トナレハ移送スルモ矢張り訴訟ノ繼續中ナレハ移送セラレタル裁判所ハ當然之ヲ審問スルノ義務ヲ負フモノナリト信ス

○岡崎仁三郎君曰 便宜上此問題ヲ左ノ三個ニ區別スルヲ望ム

- 一 移送ヲ受ケタル裁判所ハ當事者ノ申立ナキモ當然審判ニ着手スヘキヤ否
- 二 若シ申立ヲ要スルモノトセハ當事者ニ審判願ヲ爲ス期間ハ如何
- 三 上告判決ノ正本ヲ送達セサル可カラザルヤ否



○藤本直治郎君曰 赤間關ハ支部ユヘ本問ノ如キ場合ヲ生セス然レトモ意見トシテハ平田君ニ賛成ス

○向坂弘君曰 松江ニハ實例ヲ聞カノ意見ハ平田君ノ説ニ賛成ス

○平田卓爾君曰 上告判決正本ノ送達ハ不必要ナリ何トナレハ上告審ノ判決ハ即時確定スレハナリ

○瀧本駒太郎君曰 判決正本ハ送達セサルヘカス送達セサレハ相手ニ知ラシムルコトヲ得ス

○安倍萬太郎君曰 判決正本ノ送達ハ要セサルモノナリ本年三月大審院ニ於テ全院ノ判決ニ直チニ執行文ヲ付セルヲ見タリ故ニ相手方ニ知ラシムルノ必要ナシ故ニ総テノ場合ニ於テ不必要ナリ

○藤本直治郎君曰 正本送達ヲ要セサルコト平田君ノ説ニ賛成ス

○信吉五朗君曰 本員ハ前説ヲ取消シ平田君ノ意見ニ賛成ス

○議長(松山廣居君)曰 平田君ノ説ニハ瀧本君一名ノ外雜議者ナキヲ以テ之ニ決

ス是レヨリ第二號問題第十八項ニ移ラン

議 題

家資分散法第一條ニ依リ義務辨濟スル資力ナキモノニ對シテ家資分散書タル宣告ヲ爲ス裁判所アリヤ否各地 取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○信吉五朗君曰 山口ノ裁判所ニテモ辨濟資力ノナキ及ヒ不足ノ場合ハ分産者タル宣告ヲ爲シ之ヲ揭示スルコト申立ヲ待タス至當ノ處置ナリト信ス

○藤本直治郎君曰 船木區裁判所ニテハ揭示セルヲ見タルコトアリシカ此手續ヲ以テ爲シタリト聞ケリ元來此宣告ハ職權ヲ以テモ爲スヲ得ヘキハ勿論ナレモ分産者ヲ多ク作ルハ社會ノ不利益ナルノミナラス債權者ノ申立ナキニ進ンテ名譽上又ハ公權上ノ刑罰ヲ受ケシムルハ允當ナラス故ニ申立ヲ待ツテ正當ト考フ

○向坂弘君曰 松江區裁判所ニ五六件アリタリ何レモ申立ニヨリテ實行セリ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ニ於テハ未タ實例ヲ聞カス然レモ本員ノ意見ハ通常申立ヲ待チ又狀情ニ依リテハ職權ヲ以テスルモ可ナラン



○議長(松山廣居君)曰 第十九項ニ移ラン

議 題

無報酬ニテ住居セシメタル住居人ニ對シ立退キテ求ムル訴訟ノ印紙貼用方ハ如何ナル取扱ニナリ居ルヤ

○信吉五朗君曰 山口邊ニ於テハ未チ實例ナシ本員ノ意見ハ元來無報酬ナル以上ハ財産權上ノ争ヒニアラスシテ單ニ人ノ立退即チ行爲ヲ求ムルモノナレハ三圓ノ印紙ニテ可ナリト信ス

○平田卓爾君曰 信吉君ト全意見ナリ

○藤本直治郎君曰 本問ノ争ヒハ仮令無報酬ナリト雖トモ住居權ノ争ナルコト明白ナリ而シテ住居ノ權ハ一ノ財産權ナル以上ハ此訴訟ノ財産權上ノ請求ナルコト勿論ナリ而シテ印紙ハ家屋ノ價格ニ應セサルヘカラスト考フ赤間關ニ於テモ實例ニ於テ右ノ如ク取扱ヘリト聞ク

○信吉五朗君曰 本問ノ場合ハ家ノ所有權ヲ争フモノニアラサレハ財産上ノ訴訟

ニアラス

○瀧本駒太郎君曰 本問ノ財産權上ノ請求ナルコトハ論ヲ俟タス而シテ其印紙ハ訴訟法第六條ニ依リ同第三條第五條ノ規定ヲ準用シ家賃ヲ評價シテ其二十倍タルニシ

○安倍萬太郎君曰 財産權上ノ訴訟タルコト及ヒ印紙ノ貼川方モ藤本直治郎君ノ說ニ賛成ス此請求ハ先方ノ掌理ニ在ル物ヲ取戻スモノナレハ引渡サシム物件其物ノ價格ハ即チ訴訟物ノ價格ト爲スハ至當ナリ何トナレハ原告ノ被害ハ家ノ全部ニ存スレハナリ

○高野一步君曰 藤本君ニ賛成ス

○議長(松山廣居君)曰 信吉君ノ財産權上ノ訴訟ニアラスト云フ說ニ同意者ハ起立アレ

起立 四名

藤本君ノ財産權上ノ訴訟ナリト云フ說ニ全意者ハ起立アレ



起立 八名

藤本君ノ印紙ノ貼用ハ家屋ノ價格ニ依ルベシトノ説ニ全意者ハ起立アレ

起立 六名

瀧本君ノ屋賃ヲ見積リ之ヲ標準トスヘシト云フ説ニ全意者ハ起立アレ

起立 六名

○議長(松山廣居君)曰 前段ハ多數ニ依リ藤本君ノ財産權上ノ訴訟アリトノ説ニ決シ後段ハ二説同數ニ付自分ノ意見ヲ以テ瀧本君ノ説ニ決ス之レヨリ第二號問題第二十項ニ移ラン

議題

欠席判決故障ノ申立中本案ノ辨論事項ヲ掲ケタル時其印紙貼用方五拾錢ニテ可ナルヤ否各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○高野一步君曰 廣野地方裁判所ニテハ五拾錢ナルモ區裁判所ハ五拾錢ノ外貳拾錢ヲ貼用スルノ慣例ナリ其記載事項ノ性質ニ依リ更ニ印紙ヲ加貼セシム本員ハ先

例ヲ可トス

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ハ五拾錢ニテ可ナリ之ニ至當ナリト思考ス

○信吉五朗君曰 瀧本君ニ賛成ス山口ノ實例モ全シ

○向坂弘君曰 瀧本君ニ同意ス松江ノ實例モ全シ

○藤本直治郎君曰 赤間關モ濱田ト全シ而シテ之ヲ正當トス小倉支部ノ實例モ五拾錢ナリ

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ハ本案ノ辨論事項ヲ掲ケタル書面ニ別ニ印紙ヲ貼用セシム是レハ不當ナリト思考ス

○議長(松山廣居君)曰 本題瀧本君ノ説ニハ高野君ノ外ニ異議者ナキ故五拾錢ニテ可ナリト決シ第二號問題第二十一項ニ移ラン

議題

一旦訴訟用印紙ヲ貼用シタル書類ニシテ使用(一旦書類ヲ作リシモ之ヲ裁判所ニ出サズ又ハ之ヲ差出シタルレ其儘ニテ返却セラシタル場合ヲ云フ)ヲ爲サ、



リシ時ハ理由ヲ具陳スルモ再ヒ他ノ書類ニ貼用スルヲ得セシメサル裁判所アリ  
各地ノ取扱振如何

○信吉五朗君曰 使用セサリシ場合ニハ再用シ可ナリ山口裁判所ニハ之ヲ答メス  
獨リ萩區裁判所現今ノ實例ヲ聞クニ再ヒ使用スルヲ許サズ不都合ナリ

○藤本直治郎君曰 使用ヲ爲サ、ルモノヲ再用スルハ決シテ咎ムヘキニアラス赤  
問關ノ裁判所モ之ヲ答メスト聞ク尤モ同裁判所ノ代書人等ハ印紙ノ中央ニ消印シ  
テ再用ヲ容易ナラシムル風アリ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ハ如何ナル場合ニテモ再用ヲ許サス是ハ不當ナ  
リト考フ尙ホ實際ニ於テモ不便ナリ

○向阪弘君曰 再用シテ差岡ナシト思考ス

○平本希一郎君曰 廣島區裁判所ハ再用ヲ許サズ不當ナリ尙ホ之ニハ明治十九年  
カ十年頃ノ大審院ノ判決例モアリ

○議長(松山廣居君)曰 再用シテ差岡ナシトノ說ニ異議者ナキヲ以テ之ニ決シテ

第二號問題第二十二項ニ移ラン

議 題

書證原本ニ五拾錢ノ印紙ヲ貼用セシムル裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テ  
ノ意見如何

○岡崎仁三郎君說明シテ曰 廣島扣訴院ニテハ書證ヲ提出スルトキハ毎回證據調  
申立ヲ要スルモノトシ而シテ別ニ申立書ヲ作ラズ直ニ原本ヲ以テ申立書ト見做シ之  
ニ申立ニ要スル印紙五拾錢ヲ貼用セシムルモノナリ

○信吉五朗君曰 山口及岩國ノ裁判所ハ印紙ヲ貼用セズ又別ニ證據調ノ申立ヲモ  
爲サス是レ附屬書類ナレハナリ萩區裁判所ハ書證ノ原本ニ付キ一回毎ニ貳拾錢ノ  
印紙ヲ貼用セシムル舊法ノ時ニ同シ本員ノ意見ハ最初書證提出ノ時一回ノ申立  
ヲ要シ其後ハ幾回呈出スルモ申立ヲ要セスト信ス

○藤本直治郎君曰 赤馬關ノ裁判所ニ於テハ普通書證提出ノ場合ニハ證據調ノ申  
立ヲ要セス之レハ適法ニシテ元來證據調ノ申立ハ證據調ノ決定ヲ受ク可キ場合ニ



限ルノミニシテ其他ニハ之レヲ要セス

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ニテハ貼用セシメサルコアリ又貳拾錢ヲ貼用セリ而メ本員ノ意見ハ貳拾錢ヲ正當ト信ス何トナレハ書證ヲ出スモノノ申立ニシテ又訴訟法上ニモ申出又ハ申立ノ語ヲ使用シタレハナリ

○向坂弘君曰 松江ノ實例ハ赤馬關ニ全シク意見ハ藤本君ニ賛成ス

○平田卓爾君曰 本員モ廣島控訴院ノ處置ヲ不當ナリト信ス何トナレハ證據調ノ申立ハ特別ノ證據調ニ要スルモノナレハナリ

○高野一步君曰 本員ハ毎回證據調ノ申立ヲ要スルモノト考フ

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ニテハ印紙ヲ要セス又別ニ證據調申立モ要セス本員ノ説ハ藤本君ニ全シ

○議長(松山廣居君)曰 普通證書ノ提出ニハ證據調申立ヲ要セストノ藤本君ノ説多數ト認ムルヲ以テ他ニ異論モナケレハ書證ハ證據調ニアラス從ツテ貳拾錢ヲ貼用セサルノミナラス總テ印紙ヲ要セサルコトニ決ス

議長開會ヲ告グ

時ニ午後三時四拾分

第五日 七月廿四日

開會 午前九時

出席員左ノ如シ

廣島組合員

松山廣居君 高野一步君 高田似壠君

岡崎仁三郎君 香川 齋君 平本希一郎君

富島豊太郎君 川端守綱君

濱田組合員

瀧本駒太郎君

山口組合員

信吉五朗君 富家平八郎君



○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 本日ハ第二號問題二十三項ヨリ始メシ

議 題

訴訟委任狀ヲ以テ和解ノ申立ヲナサシムルヤ否各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ノ實例ハ別ニ委任狀ヲ取ルコトナリ居レリ抑モ和解ナルモノハ訴訟ノ性質ヲ帶フルモノニアラサルハ言テ俟タス故ニ和解ニ付テノ受權ハ別ニ委任狀ヲ要スルコト勿論ノコトニテ法條ノ規定モアリ實例ヲ至當トス

○向坂弘君曰 松江ニ於ケル實例ハ訴訟ノ委任狀ヲ以テ和解ヲ申立ツルコトヲ許サス

○信吉五郎君曰 訴訟法第六十五條第二項ニ明文アリ斷シテ許スヘキ者ニアラス

○平本希一郎君曰 瀧本君ニ賛成ス

○信吉五郎君曰 此問題ハ廢案ニ付センコトヲ望ム

滿場異議ナシ廢案ニ決ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二號問題第廿四項ニ移ラン

議 題

上訴期間ノ滿了ヲ知得スルニ付キ各地ノ取扱振并ニ其意見如何

○瀧本駒太郎君曰 濱田自ラニ於テハ實例ヲ見サレハ民事訴訟法第四百九十四條ノ手續ニ從ハハ明瞭ニ知ルコトヲ得ン

○向坂弘君曰 松江地方裁判所ニ於テハ判決正本ノ送達ヲ申立タルトキハ相手方ニモ同時ニ送達スルカ故ニ分明ナラサレハ書記ニ尋テ書記ハ其送達時間ヲ示ヌヲ以テ其ヨリ日數ヲ起算セハ其期間ノ滿了ヲ知ルコトヲ得ルナリ

○平本希一郎君曰 發題者ノ之ヲ提出シタルノ趣意ハ仮令ハ裁判所ニ出テ、滿了ヲ知ルヘキモノヲ其住所ニ居リテ之ヲ知ランコトヲ望ムモノヲ満足セシムルノ便法ヲ聞キタシト云フニアルナラン

○瀧本駒太郎君曰 其地ノ他言人ニ依頼スルヨリ他ニ便法ナカラン



赤間關組合員藤本南治郎君報告

赤間關ニテハ頗ル面倒ニテ先ツ執達吏ニ就キ正本送達ノ日時ヲ問ヒ其ヨリ起算シテ書記課ニ申出テ確定證明ヲ求ムルナリ書記課モ充分ノ日子ヲ經過スル迄證明ヲ爲スナ躊躇スト云フ

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 小憩ヲ告グ時ニ午前九時三十五分

開議全九時五十分

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 第二號第二十五項ニ移ラン

議 題

仮差押保證金額各裁判所ノ程度ハ如何

○向阪弘君曰 松江區裁判所ハ凡ソ一割又ハ二割ヲ程度トシ地方裁判所ニテハ多キハ差押物件價格ノ半額ニ達スルコトアリ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ニハ一定ノ程度ナキカ如シ然レトモ多クノ場合ニ於テハ半額以上又多キハ百五十二對スル百等ノ割ヲ以テスルコトアリ

○信吉五朗君曰 山口地方裁判所ニテハ貳百圓ニ對スル拾圓位ノ割合ナリ區裁判所ハ其標準甚タ高シ

○高野一步君曰 廣島ニテハ地方裁判所ハ其程度低ケレトモ區裁判所ハ其程度甚タ高シ地方裁判所ハ二割位ニシテ區裁判所ハ三分ノ一位ナリ

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ハ事件ノ模様ニ依リテ異ナレリ本員ノ聞見セシ實例ニ百二十拾圓ノ請求ニ七圓百圓ニ二拾圓ヲ出サシメタルコトアリ且ツ之ニ付キ本員ハ仮差押取消ノ後保證金取戻シノ手續キニ付キ各地ノ取扱振ヲ聞カン

○高田似壠君曰 保證金ノ程度ハ債權ノ性質如何ニ依ルモノニテ廣島地方裁判所ハ能ク之ヲ斟酌スルカ如クナレハ區裁判所ハ此点ニ干シテハ更ニ注意セサルカ如シ因テ本員ハ諸君ニ望ム此点ニ付テモ諸君ノ意見ヲ陳述アラソコトナ

○高野一步君曰 此問題ニ關シテハ單ニ其實例ヲ述フルニ止マテス進ンテ意見ヲモ陳バテレンコトヲ望ム

○瀧本駒太郎君曰 濱田ハ訴訟ノ性質等ニ注意セサルモノ、如シ然レトモ之ニ注



意スヘキハ勿論ノコトト考フ

○高野一步君曰 本會ノ意見ヲ一定シ置タシ仮差押ニ關シ拒絶主義ヲ探ルカ自由主義ヲ探ルカ是レ保證金ノ程度ニ大關係ヲ有スレハナリ

○信吉五朗君曰 大反對ナリ畢竟保證金ノ程度ノ如キ時人場合ノ如何ニ由リテ定ムヘキモノニシテ即チ臨機應變ノ處置トモ謂フヘキ性質ノモノナレハ之ニ付拒絶主義ヲ探ルトカ自由主義ヲ探ルトカ定ムルハ最モ不當ノコトナリト信ス

○瀧本駒太郎君曰 畢竟スルニ保證金ハ訴訟ノ場合ニ適當スルユウ注意センコトヲ裁判所ニ申込マント云フニ決定セハ敢テ不都合ナカラン

○信吉五郎君曰 裁判所ノ執務上ニ對スルコトナレハ此等ノ記事ハ不當ナリト思考ス

○瀧本駒太郎君曰 人民一般直接ノ利害ニ關スルコトナレハ其希望ヲ述フルニ於テ何ノ不可カ是アラン

赤間關組合員藤本直治郎君報告

赤間關區裁判所ニテハ何等ノ標準ニ依ルカ知ラサレトモ其割合低度ナリ大低一割以下ナリ而シテ是等ノコトハ裁判所ニ全任スルヲ要ス

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 畢竟滿場其程度ニ注意ヲ求ムルコトニ異議ナキヲ以テ之ニ決スヘシ

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 保證取下ノ手續ニ付キ其實況并ニ之ニ對スル諸君ノ意見ヲ聞ク

○瀧本駒太郎君曰 濱田ハ別ニ鄭重ナル手續ヲ要セスシテ返還スルノ例ナリ然レトモ之ニ對スル意見ハ仮差押人勝訴ノ場合ヲ除キ其他ハ總テ其返還ヲ求ムルモノハ相手方ノ連署ヲ要セシメ若シ理由ナクシテ之ヲ拒ムトキハ始メテ其由ヲ辨明シ連署ナクシテ返還ヲ得ルコト、セハ可ナラン

○高田似壠君曰 廣島地方裁判所ハ被差押人勝訴トナリシ場合ニハ請求ニ依リ相手方ノ連署ヲ要セシメタリ區裁判所ノ例ハ知ラス本員ノ意見ハ瀧本君ノ辨明スルト云フノ説ヲ取ラス而シテ此場合ニハ裁判所ニ於テ被差押人ニ對シ若シ損害要償



ノ訴ヲ起サント欲セハ何日間ニ之ヲ提起スヘシ若シ此期間ヲ經過スルトキハ保証金ハ差出人ニ還付スヘシトノ催告ヲ爲スコト、セハ確實ナル手續ナリト思考ス

○瀧本駒太郎君曰 前説ヲ取消シ高田似壠君ノ説ニ賛成ス

○信吉五朗君曰 高田君ニ賛成ナレトモ獨リ假差押人勝訴ノ場合ニ於テハ速署ヲ恐セサルコト、セン

○岡謙藏君曰 高田君ニ賛成ス

○富家平八郎君曰 信吉君ニ賛成ス

○高田似壠君曰 信吉君ニ問ハン全部ノ勝訴ノ場合ハ之ヲ除キ四分六分若クハ七分三分ナト、云フ場合ハ如何スル意見ナルヤ

○信吉五朗君曰 全部ノ場合ヲ除ケハ皆ナ速署ヲ要ストスルナリ

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 休憩ヲ告グ時ニ午前十一時四十分開會正午十二時三十分

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 信吉君ノ説ニ同意者ハ起立アレ

起立 多數

○議長代理(岡崎仁三郎君)曰 多數ナルヲ以テ信吉君ノ説ニ決ス

○議長(松山廣居君)曰 第二號問題第二十六項ニ移ラン

議 題

第一審判決后訴訟印紙ニ不足アルコトヲ覺知シ裁判無効ノ控訴ヲ爲シタル場合ノ處分各地如何

○瀧本駒太郎君曰 濱田ニハ實例ナシ書面ハ口頭辨論ト相待ツテ効川ヲナスナレハ印紙ハ不足スルトモ既ニ書面アレハ訴訟上ノ効果ヲ生ス可シ故ニ訴訟印紙法第十一條ニ從ヒ控訴審ニ於テ之ヲ追加貼用セシムレハ可ナリ只其命ニ從ハサル時ニ於テ始メテ無効ノ裁判ナリトノ判決ヲ爲スヘキノミ

○信吉五朗君曰 山口ノ裁判所ニ於テハ實例ナシ意見ハ理論ノ点ニ付テハ瀧本君ノ説ニ異ナリ印紙法第十一條ノ前段ニ依ルトキハ印紙ヲ貼用セサル書類ハ總テ無効ナリ無効ノ訴狀ヲ以テ提起シタル訴訟ニ對スル裁判ハ固ヨリ其無効ナルコト云



フナ俟タス然レモ實際同條第二段ノ規定アルヲ以テ其救正方コ於テハ差支アルコトナシ故ニ結局瀧本君ノ説ヲ賛成ス

○高野一步君曰 判決ノ無効説ニ付テハ信吉君ニ同シ而シテ是レ訴訟手續上ノ欠缺ナレハ控訴ハ此点ニ付キ判決ヲ與ヘ更ニ訴訟ヲ第一審ニ差戻シ相當印紙ヲ加貼セシメ若シ之ニ應セサルトキハ始メテ棄却スヘキナリ

○高田似壠君曰 民事訴訟法第四百二十三條ノ規定ニ依リ差戻スコト、スベシ

○瀧本駒太郎君曰 民事訴訟法第四百二十三條ノ規定ハアレトモ是レ訴訟ヲ有効ニ提起シタル後其進行中ニ於テ手續ノ違背アリタルトキノコトニシテ本題ノ如キ未タ訴訟ノ提起ナシト見ル場合殊ニ印紙ノ事ノ如キハ訴訟手續ト稱スヘキモノニアラサレハ該條ヲ適用シテ差戻シノ方法ヲ取ルコトヲ得サラン

○信吉五朗君曰 高田君カ第四百二十三條引用ノ説ヲ賛成ス

○平本希一郎君曰 瀧本君ノ説ニ賛成ス

○天野確郎君曰 第二審ニ於テハ加貼セシムルコトヲ得ス何トナレハ第一審ノ訴

訟ハ既ニ終局シタルモノナレハナリ故ニ控訴裁判所ニ於テハ第一審ノ裁判ヲ取消シテ之ヲ棄却スヘキナリ

○向阪弘君曰 松江ハ例ナシ意見ハ瀧本君ニ同シ

○富島豊太郎君曰 印紙ハ訴狀ヲ提出スルトキニ於テ必ズ貼用セザルヘカラス若シ此時ニ於テ貼用セセスシテ遂ニ判決ニ至リタルトキハ最早後ニ至リ之ヲ貼用スルヲ得サルモノトス蓋シ訴訟法上欠缺ヲ補正スルヲ得ル場合ハ其行爲ノ未タ完結セサル間ニ在ルヲ要スレバナリ一例ヲ擧グレハ第七十條第二項ノ如シ

○瀧本駒太郎君曰 該第七十條第二項ノ如キハ印紙貼付等ノ如キ輕キ事柄ト同一視スヘキニアラス委任ノ欠缺スル場合ハ本人ナキモノトスヘキヲ以テ若シ之ニ判決ヲ與フレハ無効トナルノミ

○岡崎仁三郎君曰 高野君ヲ賛成ス其裁判ノ無効ナルコトハ印紙法第十一條ニ依テ明ナリ故ニ之ヲ追完セシムル爲メ第一審裁判所ニ差戻スハ固ヨリ當然ノコトナリ



玆ニ於テ瀧本駒太郎ヲ信吉五朗君岡崎仁三郎君等ノ間相互ニ討論アリ

○議長(松山廣居君)曰 瀧本君ノ説ニ賛成者ハ起立アレ

起立 六名

高野君ノ説ニ賛成者ハ起立アレ

起立 六名

○議長(松山廣居君)曰 而説起立同數ナルニ依リ議長ノ意見ヲ以テ高野君ノ説ニ可決スヘシ

赤間關組合員藤本直治郎君報告

赤間關ハ支部ナチヲ以テ實例ヲ生セス元來印紙不足ノ訴狀ハ追完セサレハ無効ナリ而シテ判決後ハ最早追完スルヲ得サレハ第一審ノ判決ハ完ク無効ナリ故ニ控訴ニ於テハ第一審ノ判決ヲ廢棄シ更ニ訴ヲ却下スヘキナリ訴訟法第四百二十三條ハ有効ノ訴訟ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ本問ニ引用スルヲ得ス  
○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ第二號問題第七項ニ移ルヘキ筈ナルモ前第二十

四項ト重複スルヲ以テ之ヲ取消シ直ニ第二十八項ニ移ラン

議 題

○訴訟費用説明ノ手續ハ各地如何ナル取扱振ナルヤ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ニ於テハ未タ其例ヲ見聞セス

○富家平八郎君曰 山口ニ於テハ相手方及ヒ書記課ノ檢印ヲ取ラス只實際疑アル

トキハ書記課ノ訴訟記録ニ徴スルノミ

○向坂弘君曰 松江ニ於テハ今尙ホ檢印簿ニ檢印ヲ捺スルコトト爲シ居レリ

○高田似壠君曰 費用額ニ付キ不明ナル点アレハ書記課ノ訴訟記録ヲ以テ説明ノ

用ニ充ツヘキノミ

○富原豊太郎君曰 竹原區裁判所ニ於テモ松江ニ同シ

赤間關組合員藤本直治郎君報告

赤間關ニテハ只費用計算書ヲ出セハ書記課ニ於テ記録ニ就テ調査スルカ如シ別ニ証據ヲ添タルコトナシ



○議長(松山廣居君)曰 本問題ハ之ニテ了リタルヲ以テ第三號問題第一項ニ移ル  
ヘキ筈ナルモ都合アルヲ以テ之ヲ明日ニ廻ハシ先ツ第三號問題第二項ニ移ラン

議 題

刑事ノ控訴ヲ爲スニ付控訴豫納金ヲ他人ヨリ上納スルコトヲ許サ、ル裁判所アリ各地ノ取扱振如何

○瀧本駒太郎君曰 實例ヲ知ラス

○岡崎仁三郎君曰 廣島地方裁判所ニテハ從前ハ代納スルコトヲ許セシカ或ル被告  
人カ代納ノ申立ヲ爲シ置キタルニ其代納スヘキモノ控訴期限内ニ上納セス遂ニ  
控訴期間ヲ徒過セシシタルコトアリ此等ノ弊害アリシヨリ今日ニテハ同廳ハ代納  
ヲ許サス

○富家平八郎君曰 濱田ニ同シ

○向坂弘君曰 濱田ニ同シ

赤間關組合員藤本直治郎君報告

赤間關ニテハ未タ他人ヨリ代納セントシタルコトモナシ

○議長(松山廣居君)曰 本項ハ之ニテ了リ次ニ第三號問題第三項ニ移ラン

議 題

第一審裁判所ニ於テ刑期ノ範圍内其裁判ヲ宣告シタルニ犯罪ノ情狀ニ照シ寬嚴  
ノ度ヲ失シタリトシテ控訴スル檢事アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○瀧本駒太郎君曰 濱田ニ於テハ實例ヲ見ス之ニ付テノ意見ハ檢事ヨリ控訴スル  
コトヲ得サルモノト思考ス蓋シ犯罪ノ情狀ヲ斟酌シテ以テ刑ノ寬嚴ヲ定ムルハ專ラ  
裁判官ノ意見ニアルモノニシテ檢事ハ唯擬律ノ錯誤事實ノ錯誤等ノコトアルトキ  
ニ於テ公益ノ爲メ上訴ヲ爲スヘキノミ故ニ若シ本問ノ場合ニ上訴スルハ裁判官ノ  
權ヲ侵スモノト云ハサルヘカラス

○岡崎仁三郎君曰 本員ハ尙ホ問題ヲ付加セント望ム即チ本問題ノ如キ場合  
ニ於テ若シ檢事カ上訴ノ權アリトセハ被告人モ亦同一ノ場合ニ於テ其權アリヤ如  
何ト云フ是レナリ



○瀧本駒太郎君曰 被告人ノ之ヲ爲シ得ルハ事實上當然ノコトナリ

○高田似壠君曰 本員ハ檢事及被告人モ共ニ上訴ノ權アルモノト信ス蓋シ寬嚴ノ度ヲ失スルハ即チ事實ニ誤認アルモノト云フヘキノミナラス檢事ハ公益ノ爲メ此等ノ点ニ付テモ救止ヲ爲スヘキ職權アルコト勿論ナリト云フヘシ

○信吉五朗君曰 罪刑其情狀ニ的中シテ其寬嚴度ノ宜シキヲ得ノコト固ヨリ望ムヘキニアラス檢事若クハ被告人ノ其度ヲ失セリトスルモノノ意見ナリ而シテ裁判官カ之ヲ以テ其度ノ宜シキヲ得タリトセシモノノ意見ナリ而シテ遂ニ其歸スル所モ亦一ノ意見ヲ以テ定ムルニ過キス故ニ此等循環底止スル所ナキコトニ上訴ヲ許スカ如キハ却テ公益ヲ害スルモノト云ハサルヘカラサルナリ

○高野一歩君曰 高田君ノ説ヲ贊成ス

○富島豊太郎君曰 信吉君ノ説ニ贊成ス尙ホ其理由ヲ敷衍セハ抑モ控訴ハ事實ノ覆審ヲ爲スモノニシテ寬嚴其度ヲ失シタリトスルカ如キ情狀ニ關スルコトマテ覆審ヲ與フル所ニアラサレハナリ

○向坂弘君曰 松江ニハ例ナシ意見ハ信吉君ヲ贊成ス

○藤長(松山廣居君)曰 高田君ノ説ニ贊成者ハ起立アレ

起立 多數

○議長(松山廣居君)曰 本問題ニ付テハ檢事被告人何レモ上訴ヲ爲シ得ルトノ説ハ多數ナルヲ以テ之ニ可決ス

赤間關組合員藤本直治郎君報告

赤間關ニテハ檢事ノ要求ハ判決ト大ニ刑期ヲ異ニスルコトアルモ未タ之レカ爲メニ控訴セシモノナシ又赤間關ニテハ檢事ノ要求ヨリ遙カニ長期ノ刑ヲ言渡スコトアルモ是等ハ不當ニアラスト思フ

玆ニ於テ議長開會ヲ告ク

維時午後二時二十分

第六日 七月二十五日

開會 午前第九時二十分



出席員左ノ如シ

- 廣島組合員
- 富島豊太郎君
- 平田卓爾君
- 香川齋君
- 尾道組合員
- 難波恭慈君
- 濱田組合員
- 瀧本駒太郎君
- 赤間組合員
- 藤本直治郎君
- 松江組合員
- 向坂弘君
- 廣島組合員
- 藤井公道君
- 高田似壠君
- 平本希一郎君
- 栗原茂之君
- 松山廣居君
- 岡崎仁三郎君

客員東京組合員

小川活行君

○議長(松山廣居君)曰 本會モ最早今明日ノ内ニ閉會スヘケレハ豫メ職務委員チ定メ置カン就テハ其撰定方ハ投票ニスヘキカ將タ議長ヨリ指名センカ諸君ノ意見ヲ問フ

- 滿場議長ヨリ指名スルノ便ナルヲ述ヘタルニ因リ議長ハ左ノ八名ヲ指定セリ
- 廣島組合員 岡崎仁三郎君 平田卓爾君
- 安倍万太郎君
- 赤間組合員 藤本直治郎君
- 濱田組合員 瀧本駒太郎君
- 尾道組合員 難波恭慈君、栗原茂之君ノ内壹名
- 山口組合員 富家平八郎君、信吉五朗君ノ内壹名
- 松江組合員 向坂弘君



○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ昨日ニ於テ本日ニ差廻ハシタル第三號問題第壹項ニ入ラン

議 題

保釋ノ被告人有罪ノ判決ヲ受ケタルモ當然保釋ヲ取消シタルモノトシ檢事ヨリ直ニ被告人ヲ巡查ニ引渡ノ裁判所アリ各地ノ取扱振并ニ之ニ付テノ意見如何

○藤本直治郎君曰 赤間關ノ裁判所ニテハ有罪ノ判決ヲ以テ當然保釋ヲ取消シタルモノトスル舊例屢々アリ然レモ保釋ナルモノハ檢事ノ許シタルモノニアラサレハ檢事ニ於テ之レヲ取消ス職權アルヘカラス又言渡ヲ以テ許シタル保釋ナレハ又言渡ヲ以テ取消サ、ルヘカラス有罪ノ判決確定スレハ直ニ執行ニ至ルカ故ニ此時ハ執行ニ依リテ保釋ノ消滅スルハ自然ノ結果ナルヲ以テ是レ別論ナカルヘシ故ニ檢事ノ處置ハ不當ナリト信ス

○信吉五郎君曰 山口ノ裁判所ニテハ未タ實例ヲ知ラス然レトモ檢事カ保釋ヲ取消シ巡查ニ引渡ハ其職權外ナルコト論ヲ待タス藤本君ニ賛成

○瀧本駒太郎君曰 濱田ノ裁判所ニ於テノ實例ハ見聞セズ此ニ付テノ意見及理由ハ藤本君ニ全シ尙ホ一理由ヲ附センニ舊治罪法ニ於テハ有罪ノ判決ヲ以テ當然保釋ヲ消滅セシムル規定アリシニ刑事訴訟法ニハ此規定ヲ删除セシテ見ルモ別段ニ言渡ヲ以テ之レヲ取消スノ手續ヲ要スルヲ見ル可シ

○栗原茂之君 尾道ノ裁判所ニテハ檢事ニ於テ指揮書ナルモノヲ發シテ巡查ニ引渡スナリ然レモ檢事ノ指揮書ニテ保釋ヲ取消スハ不當ナルコト勿論ナルヲ以テ本員ハ之ヲ檢事ニ質シタルニ檢事ノ意見ニハ檢事ナルモノハ公益ヲ保護スル職務アレハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル被告人ヲ拘束スルハ此公益保護ニ基クモノナリトシ今尙ホ之レヲ改メス

○信吉五郎君曰 刑事訴訟法上檢事ノ職權ヲ見ルニ現行犯罪ノ場合ノ外ハ被告人ヲ拘留スルノ權利ナク其他ハ只捜査スルノミナリ左レハ職權ナキヲ明ニシテ人身ノ自由ハ法律ノ明規ナキニ拘束シ得ルモノニ非ラサレハナリ

○向坂弘君曰 松江ニ於テハ實例ナシ意見ハ藤本君ニ全シ



尙此他平田卓爾君藤井公道君岡崎仁三郎君等ノ討論アリシ末左ノ如ク決定セリ  
檢事ハ保釋ヲ取消シ得ルノ職權ナキカ故ニ有罪ノ判決アルモ直ニ拘留ヲ命スル  
ハ甚太シキ越權不法ノ處置ナリ

○平田卓爾君曰 本員ハ此間ニ一ノ新問題ヲ呈出セン而シテ此問題ハ今ヨリ議セ  
ントスル處ノ第四號問題ト大ニ其性質ヲ異ニスルヲ以テ此處ニテ議セラレノヲテ  
望ム

茲ニ於テ議長出席員ノ意見ヲ問ヒシニ賛成者アリテ議題トナリ直ニ其議事ニ入ル

議 題

訴訟カ上訴ノ上訴確定シタルトキハ其執行力アル正本ハ第一審裁判所ニ於テ付  
與スヘキカ又ハ其最終ノ上級裁判所ニ於テ付與スヘキヤ

○瀨本駒太郎君曰 濱田裁判所ニ於ケル實例ハ知ラサルモ本員ハ總テ第一審裁判所  
ニ於テ付與スヘキ者ト信ス本問題ハ要スルニ民事訴訟法第五百十六條第二項二段  
ノ解釋ナルカ其本文ヲ見ルニ訴訟カ上級審ニ屬スル時ハ云々トアルハ現ニ上級

審ニ屬中ニ於テ其他ノ一部ノニ確定シタル時ニ適用スヘキ法又ナルコ全法第四  
百九十九條第二項ヲ參照スルニ明白ナリ況ンヤ上訴ノ確定スルモ其訴訟記録ハ  
總テ第一審裁判所ニ返還スルモノナレハ實際ニ於テモ亦然ヲサルヲ得サルナリ

○瀨本直治郎君曰 赤間關ニ於ケル實例ハ然ラサルモ本員ハ瀨本君ノ說ニ全シ尙  
他ノ理由ハ五百十六條第二項末段ニ於テ(上級審ニ屬スルトキハ)トノ現在ノ文  
詞ヲ用ヒ(聲屬セシトキ)ト云ヘル過去ノ文詞ヲ用ヒサルヲ見テモ知ル可シ

○向坂弘君曰 松江ニテハ第一審裁判所ヨリ付與スル例ナリ而シテ本員ハ之レヲ  
以テ適法ト信ス

○宮島豊太郎君曰 本員ハ上級審ニ於テ確定セシモハ上級審ニ於テ執行力アル正  
本ヲ付與スヘキモノト信ス瀨本君ハ第四百九十九條第二項ヲ引用スルモ全條ハ證  
明書ニ關スルモノニシテ此場合ニハ引用スルヲ得サルナリ

○高田似壠君曰 本員ハ宮島君ニ賛成ス之レハ訴訟法第五百十六條第二項ノ文章  
ヲ見ルモ明白ナリ又藤本君ノ說アレトモ凡テ訴訟法ニハ(聲屬セシ時ハ)トノ文例



テ用ヒサルナリ故ニ(繫属スル時ハ)ノ語中ニ現在モ過去モ包含セシモノト解ス可  
キナリ

○信吉五朗君曰 富島君ニ賛成ス又實例ニ於テモ多クハ上級審ニ於テ付與スルナ  
リ

○平田早爾君曰 本員ハ凡テ第一審ニ於テ付與スルテ正當ト信スルカ故ニ瀧本君  
ノ説ヲ賛成ス訴訟法ノ規定ニ依レハ假令上級審ニ於テ確定スルモ其訴訟記録ハ第  
一審ニ返還スルナリ左レハ第一審ニ於テ付與スルハ實際便利ニシテ反對論ハ實地  
ヲ知ラサルノ致ス所ナリ

○客員小川浩行君議長ノ問ニ答ヘテ曰 大審院ニ於テ初メハ第一審ニ於テ付與ス  
ヘキモノトシ又中頃ニ至リテハ全院ニ於テ直ニ付與セシモ其后又第一審ノ裁判所  
ヨリ付與スルモノト爲セリ

○議長(松山廣居君)曰 最早採決ス可シ  
玆ニ於テ各説起立ヲ命シタル結果左ノ如シ

第一審ニ於テ付與スヘキモノトノ説 六名

上級審ニ於テ付與スヘキモノトノ説 九名

依テ上級審ニ於テ付與スヘキモノト決ス

○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ第四號問題第一項ニ移ラン

議 題

和解事件ニ比シ督促請求事件ノ寡少ナル理由如何

○藤本直治郎君曰 督促事件ノ寡少ナルハ實際ニ於テ大低其効能ヲ見サルニ因ル  
者ト思惟ス普通支拂命令ヲ受ケタル債務者ハ正當ノ理由ヲ有セサルニモ拘ハラ  
直ニ異議ヲ申立テ爲メニ本訴訟ニ入ラサルヘカラス又仮令ヒ其異議ヲ申立テス執  
行ニ至ルモ其執行ハ仮執行ノ宣言アル欠席判決ノ効ヲ有スルノミナレハ又之レヨ  
リ故障起リ徒ラニ時日ヲ費スノミナレハナリ

○向坂弘君曰 松江ニ於テモ督促事件ナシ其事由ハ藤本君ト同感ナリ

○富家平八郎君曰 山口ニテハ時トシテ此手續ヲ行フモノアルモ相手方ニ於テ理



由チ有セスシテ漫ニ異議ヲ由立ツルモノアルカ故ニ之ヲ用ヒス尙亦其實効ナキニ  
因ル

○香川齋君曰 廣島ニ於テモ少シ其事由ハ藤本君ニ全シ

○瀧本駒太郎君曰 濱田ニ於テモ稀少ナリ其事由ハ藤本君ト全感

○富島豊太郎君曰 竹原區裁判所ニテハ督促手續ヲ爲スモノ多シ是其手續ノ簡單  
ナルト若シ異議ヲ由立ツル時ハ直ニ訴訟トシテ對審ヲ開キ得ルカ故ニ闕席判決ヲ  
受クル等ノコトナク隨テ訴訟ヲ速カニ完結セシムルニ由ルカ

○高田似壠君曰 廣島ニテ此手續ヲ爲ス者ノ少ナキハ其手續却テ煩雜ニシテ殆ソ  
ト出訴ヲ爲スト全一ノ手數アルニ因ルモ亦一ノ理由ナラン

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第四號問題第二項ニ移ラン

議 題

和解調書ヲ作ルト否ラスシテ實行迄日延テ與フルト當事者間ノ便否如何

○信吉五郎君曰 本問ノ如キハ豫斷スヘカラス單ニ相手方ノ信用如何ニ關スルモ

ノナリ

○藤本直治郎君曰 調書ヲ作り置クヲ便トス調書ヲ作ルモ必ス執行セサルヘカヲ  
サルニアラス又事ノ確實期シ得ヘキヲ以テナリ

○平田卓爾君曰 本員ハ調書ヲ作ラサルヲ便ト考フ何トナレハ一旦調書ヲ作レバ  
若シ之レヲ履行セサル時ハ債權者ハ直ニ履行ノ手續ヲ爲スニ至ル然ルニ既ニ義務  
ヲ自認セル上ハ單ニ日延ヲ約スルノミニシテ入抵ハ辨濟ヲ得ヘシ且又其自認ハ法  
庭ノ自認ナレハ有効ナリ左レハ徒ラニ費用ト日時ヲ要スルニ比シテ優ルコト勿論ナ  
リ

○瀧本駒太郎君曰 調書ヲ作ルヲ以テ便トス若シ日延ノ約ニシテ履行ヲ得ザルト  
キハ直ニ之ニ依テ強制執行ヲ得ルノ便ノレハアリ

○議長(松山廣居君)曰 調書ヲ作ルハ便利ナリトノ說多數ニ付之レニ決シ是レヨ  
リ第四號問題第三項ニ移ラン

議 題



民事訴訟上ニ付區裁判所ノ權限ニ屬スル事件ハ今仍ホ多クハ代人ヲ用ヒ代人ニ依ラサルハ如何ナル事由アリヤ

○高田似壠君 是レ訴訟法上區裁判所ニ於テハ代人ヲ許ス規定アルカ故ナリ

○瀧小駒太郎君曰 高田君ノ説ノ如ケン

○平田卓爾君曰 訴訟法上代人ヲ許スモ其制限アレハ以テ本問ノ事由ト爲スヘカ  
ラヌ要スルニ區裁判所ノ事件ハ其價格少ナリ從テ代言人ニ依頼スルハ謝金等ノ費  
用多ク隨テ得失相償ハサルニ因ルモノナラン

○信吉五郎君曰 山口區裁判所ニテハ多クハ代言人ニ依ル又該區裁判所ニテハ代  
言人ナキカ故代人ニ依レリ

○藤井公道君曰 是レ代書人カ紹介スルニ依ルト思ハル

○栗原茂之君曰 尾道區裁判所ニ於テハ代言人ニ依ルモノ多シ

○藤本直治郎君曰 赤間關區裁判所ニテハ容易ニ代人ヲ許スコトアルニ依ル代言  
人ニ於テハ依頼スル者アリテ始メテ其受任ヲ爲スモノナレトモ代人ナルモノハ進

ンテ訴訟ヲ起サシム而シテ彼等ハ親屬雇人等ト稱シ代人ヲ願出裁判所モ亦深ク之  
ヲ探求セスシテ許可ス是レ本問事由ノ一ナラン代人願出ルモノアル時ハ一々市町  
村役場ノ證明ヲ要ストセハ大ニ減少ス可シ但裁判所ニ依リテハ此證明ノ手續ヲ用  
フルモノアリ

○向坂弘君曰 松江ニテハ六分方代言人ニ依頼シ唯四分方代人ニ依頼ス此代人ニ  
依頼スルモノハ却テ費用ノ多キヲ要スルヲ恐ル、故ナラン

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第四號問題第四項ニ移ラン

議 題

民事訴訟法實施后證書訴訟ノ絶テナキ理由如何

○高田似壠君曰 此問題ノ如キハ赤間關ニ限ル地方問題ニシテ本會ヘ對スル問題  
ナラス故ニ廢棄ス可シ

○藤本直治郎君曰 仮令他ノ裁判所ニハ證書訴訟アリトスルモ其之レナキトコロ  
ハ又之レヲ持出シテ互ニ各地狀況ヲ對照スルハ利益ナリ故ニ廢棄ス可キニアラス



右兩説何レモ賛成者アリタルヲ以テ議長ハ議場ノ意見ヲ問ヒタルニ六名ニ對スル八名ノ多數ニテ維持ニ決セリ

○藤本直治郎君曰 此證書訴訟ノ少ナキハ第一ニ公正證書ヲ作ルコト行ハレサルニ依ル蓋シ私書証書ニテ凡テノ事實ヲ証スルヲ得ルモノ少ナシ第二代言人ニ依頼スル事件ノ如キハ何レモ多少ノ紛争アリテ單ニ證書ノミヲ以テ證シ得ルカ如キ簡單ナルモノ少ナシ第三普通人民ハ未タ此訴訟ノ手續アルヲ知ラス第四一般此訴訟ハ効用薄シ是等ノ事由アリテ然ルモノナラン

○信吉五郎君曰 證書訴訟ハ普通訴訟ノ變例ナリ是故ニ其少ナキハ當然ナリ山口ニテハ時々有之

○瀧本駒太郎君曰 訴訟法ノ規定上權利留保等ノ事アリテ督促手續ト全シク全ク効用ノ少ナキニ依ルモノナラン

○向坂弘君曰 松江ニ於テハ隨分證書訴訟ヲ見ル尤モ之レハ代言人ニ於テ爲スモノニシテ普通人民ハ法律ヲ知ラサルヨリ之ヲ爲サズ

○高田似壠君曰 決シテ効用ナキカ故ニアラフ訴訟ハ何時ニテモ通常訴訟ニ擊屬セシムルヲ得畢竟代言人カ取扱フ事件中ニ少ナキノミ

○平田卓爾君曰 我新法ハ折角此證書訴訟ノ變式便法ヲ採川シタルモ規定中權利行使留保ノ道ヲ開キタル爲メ此便法ヲシテ遂ニ徒法タラシメタリ是レ此訴訟ノナキ所以ナリ間ク獨乙ノ訴訟法ニテハ權利留保ノ事ナシト云フ

○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ第四號問題第五項ニ移ラン

議 題

公正証書ヲ以テ執行願出又ハ訴訟ヲ爲スモノ曾テアラス右ハ人民ニ於テ公正証書ノ効驗ヲ知ラサルニ由ルカ又ハ當地ニ公証人ナキニ由ルカ

○信吉五郎君曰 此問題ハ獨リ赤間關ニノミ關スル問題ニシテ本會ノ答フ可キモノニアラサルナリ故ニ廢棄センコトヲ望ム

此建議ニ對シ賛成者アリ

○議長(松山廣居君)曰 本問ハ廢棄スヘシトノ説多數ナルヲ以テ次ニ第四號問題



第六項ニ移ルヘキモ本項ハ先キニ議シタル第一號問題第七第八兩項ニ於テ既ニ識了シ悉シタルヲ以テ省察シ直ニ第四號問題第七項ニ移ラン

議題

強制執財行ノ際産脱漏等ノ弊害ナキヤ若シアリトセハ其防禦方法アリヤ

○岡崎仁三郎君曰 脱漏ノ弊害多シ然レトモ之ヲ防禦スルノ手段ハカナル可シ是

尙ホ總テノ犯罪ヲ防グノ方法ヲ研究スルカ如シ

○藤本直治郎君曰 舊法ニ於テ村長カ仮差押ヲ爲シ封印シタルモノモ往々解放シタルヲ見ルモ執達吏之ヲ執行スルニ至テ此弊害滅却セリ

高野一步君曰信吉五郎君等ノ發言アリシモ何レモ岡崎仁三郎君ノ説ニ全シ

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第四號問題第八項ニ入ルヘキモ全項ハ已ニ第一

項問題中ニテ議了シ悉シタレハ之ヲ省キ直ニ第四號問題第九項ニ移ラン

議題

各裁判所人民扣所ニ於テ代書ヲナスモノニシテ不當ノ代書料ヲ要ムル如キ弊害

ナキヤ又此等ノ者當事者ニ對シ明リニ教唆ヲナシ或ハ不遜無禮ノ所爲ナキヤ

○岡崎仁三郎君曰 第一点廣島ニテハ代書料ヲ一定セルカ故不當ニ之ヲ要スルコトナシ第二点訴訟ヲ教唆スルコトアリ第三点ハ其弊ナシ

○高田似壠君曰 本員ノ現ニ目撃シタルモノニ口實ヲ設ケテ一枚ノ代書料金拾錢ヲ強取シタル者アリタリ

○信吉五郎君曰 第一点ニ付キ山口地方裁判所ニテハ構内ニテ代書人ヲ許サス構外ニ居ル代書人ニ至テハ其弊害アリト見ユ全區裁判所ニテハ構内ニ代書人ヲ許ス

モ代書料ハ自ラ一定セリ第二点訴訟ヲ教唆スルノ弊アリ是レ訴訟ヲ起サシメ自ラ

代言人ニ紹介シテ其間ニ利益ヲ貪ラントスルニ因ル第三点其弊ナシ

○向坂弘君曰 松江ニテハ凡テ代書人ノ弊ナシ

○藤本直治郎君曰 第一点亦間關ニテハ代書料ハ一定セルモ不要ノ書類ヲ認メテ

代書料ヲ要シ又仮差押ノ申請等ヲ爲セハ代書料ノ外禮金ヲ貪ル弊アリ第二点訴訟

ヲ教唆スルコト山口ニ全シ第三点普通人民中田舎者ト見ユルモノニ對シテハ稍此弊

ナキヤ

○高野一步君曰 山口ニ全シ第三点普通人民中田舎者ト見ユルモノニ對シテハ稍此弊



アリ恰モ小吏ノ如シ

○瀧本駒太郎君曰 總テノ点ニ於テ言フ可キ程ノ弊害ヲ見ス

議長小憩ヲ告ク時ニ午後零時十分

開議全零時三十五分

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第四號問題第十項ニ移ラン

議 題

登記法第四十條ニヨリ登記ヲ請フ者曾テ之ナキハ人民ニ於テ法律ヲ熟知セサルニ由ルカ將タ所有權ノ確保ヲ重セサルニ由ルカ

○藤本直治郎君曰 人民ノ法律不知ニ由ルモノト思ハル何人ト雖モ所有權確保ヲ欲セサルモノナケレハナリ

○高野一步君曰 是レ全ク必要ナキニ依ルモノナリ即チ市町村役場ニ基帳ノ備ヘアリ之レニ依リ充分ノ確保ト爲レハナリ

○瀧本駒太郎君曰 高野君ノ意見ニ同シ

○難波泰慈君曰 本員モ高野君ト同感ナリ

○信吉五郎君曰 斯ル事由ハ一原因ニ偏スヘキニアラズ故ニ藤本高野兩君ノ説ヲ取ル可キナリ

○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ第四號問題第十一項ニ移ルヘキモ本項ハ既ニ第一號第二號問題中ニ散在アリシヲ以テ其議事ニ省キ直チニ第五號問題第一項ニ移ラ

ン

議 題

代理人ニアラスシテ猥リニ民刑事訴訟ニ干與シ不良ノ所爲アル者ノ防止手段如何

○藤本直治郎君曰 赤間關地方ニテ所謂三百代言ノ弊害各地ト異ナラズ之レヲ防止スルニハ此輩ノ名簿ヲ作りテ裁判所ニ備ヘ置キ裁判所ハ一切訴訟代理及補佐人

タルヲ許サズ又代理人ニ於テ此輩ヨリ一切訴訟ノ紹介ヲ受ケサルコトニスレハ此輩ノ糊口ノ道ヲ杜絶シ遂ニ自滅スルニ至ラント信メ



○高田似壘君曰 此問題ニ付テハ曾テ屢々本會ニ見ハレタルモ遂ニ其良法ヲ案出セシコトナク又廣島組合ニ於テモ組合規則ニ種々ノ制限ヲ設ケ或ハ彼ノ往々見ル處ノ紹介料ヲ與ヘストシタルコトモアリ其他名簿ヲ裁判所ニ届ケ出テ置キタルコトモアリ裁判所モ初メハ嚴重ニ取調ヘテ裁判所へ出入スルノ道ヲ防キタレモ何レモ一時ノコトニシテ實効ヲ奏セズ取スルコト本員モ此ノ弊害ノ甚シキニハ實ニ慨嘆ニ堪ヘサルモ此ハ是レ自然ノ進化ニ委スルノ外他ニ其策ナカルヘシ

是レヨリ次テ信吉五郎君難波泰慈君高野一步君平本希一郎君富島豊太郎君平田卓爾君富家平八郎君向坂弘君崎七三郎君瀧本駒太郎君等ノ辨難駁撃長時ニ涉リシカ何レモ代言人ノ内情ニ涉ルコト多キヲ以テ茲ニ之ヲ載セズ

○議長(松山廣居君)曰 最早十分諸君ノ意見ヲ吐露セラレタルヲ以テ採決ス可シ藤本君ノ取締方法ヲ設グルノ說ニ賛成者ハ起立アレ

起立 五名

高田君ノ到底實効ナキヲ以テ取締方法ヲ設ケサルノ說ニ賛成者ハ起立アレ

起立 七名

○議長(松山廣居君)曰 多數ヲ以テ高田君ノ說ニ決シ本日ハ是レニテ閉會セン

閉會午後三時二十分

第七日 七月廿六日

開會 午前十時

出席員左ノ如シ

廣島組合員

松山 廣居君

岡崎仁三郎君

河端守綱君

藤井公道君

山口組合員

富家平八郎君

信吉五郎君

赤間關組合員

藤本直治郎君



松江組合員

向坂 弘君

尾道組合員

栗原 茂之君

○議長(松山廣居君)曰 本日ノ會議ヲ開カン

○信吉五朗君曰 本員ハ緊急動議アリ昨日ノ本會ニ於テ第五號問題第一項ノ採決方法ハ頗ル不當ナリ何トナレハ該項ノ如キハ各組合各自カ蒙ムル弊害ナレハ法律ノ解釋等ニ關スル問題ノ如ク單ニ出席員ノミノ多數ニ依テ決スヘキニアラス其採決ハ宜シク出席各地組合毎ニ一個ノ投票ヲ以テ決セサルヘカラス故ニ昨日ノ採決ハ無効ナリトノ議決アランヲ望ム

○藤本直治郎君曰 信吉五郎君ノ動議ヲ賛成ス蓋シ斯ノ問題ノ如キ弊害ニ因テ損害ヲ受グル者ハ各組合全等ナルニ昨日ノ採決ノ如キハ本員ノ如キ一ノ組合ヲ代表スル委員モ又一個ノ資格ニテ出席セル廣島組合員モ全等ノ表決數ニ加ヘタルハ不

當ナリトス

○議長(松山廣居君)曰 信吉君ノ動議ハ賛成者アリテ成立セリ又最早意見モ盡キタレハ直ニ採決セン

昨日ノ第五號第一項問題ニ對スル決議ハ無効ナリトノ説ニ全意者起立アレ

起立 滿場

○議長(松山廣居君)曰 滿場一致ナルヲ以テ第五號問題第一項ニ對スル本會ノ議決ハ無効ナリト決シ再ヒ之ヲ議事ニ付セン

○藤本直治郎君曰 本員ハ昨日既ニ方案ヲ提出セシカ今其理由ヲ省キ直ニ個條トシテ之ヲ列舉セン

一 代理人ニアラスシテ訴訟ニ干與スルヲ以テ業トスル者ノ名簿ヲ作り一ハ組合ニ備ヘ置キ一ハ裁判所ヘ届ケ置ク

二 右名簿ニ登録セラレタル者ニ對シテハ一切ノ訴訟代理人及補佐人タルコトヲ許サ、ルヲ裁判所ヘ申出ツル



三 代言人ハ右名簿ニ登録セナレタル者ヨリハ一切訴訟ノ紹介ヲ受クヘカラサル

四 前項ヲ實行スルニ付テノ細則又制裁等ニ關スルコトハ組合ニ於テ便宜之ヲ定ム可シ

○信吉五朗君曰 藤本君ノ方案ヲ賛成ス

○向坂弘君曰 藤本君ニ賛成ス

○議長(松山廣居君)曰 本問題ニ付テハ最早昨日ニ於テ十分之ヲ討議シ本日ハ別ニ議論ナケレハ直ニ採決ス可シ

茲ニ於テ議長ハ出席各組各委員及廣島組各委員一名ニ起立ヲ求メタルニ藤本君ノ方案ニ滿場一致セリ

○議長(松山廣居君)曰 出席組合即チ山口赤間關尾道松江ノ各委員及ヒ出席廣島組合員一人モ異議ナキヲ以テ藤本君ノ方案ニ決ス

○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ第五號問題第二項ニ移ラン

議 題

代書人取締方法如何

○藤本直治郎君曰 代書人ノ取締方法ハ必ス之ヲ定ムルヲ要ス然レモ其詳細ノ法案ハ各地狀況ヲ異ニスルニ依リ一定スルヲ得サルヲ以テ本會ニ於テハ其大綱方針ノミヲ一定スルノミニセシメテ望ム本員ハ其大綱ハ左ノ如クセシメテ望ム

一 代書人撰定方法ヲ定ムルコト

二 代書料ヲ一定スルコト

三 代書シタル書面ニハ必ス連署セシムルコト

四 代書人ノ過誤ヨリシテ其代書シタル書面ノ効用ヲ爲サ、ルモハ代書料ヲ要ムルヲ得サルコト

五 代書人ハ裁判所人民扣所内ニ於テ其事務ヲ執ルヘキコト但開庭時間ノ外ハ此限ニアラス

六 代言人ニ於テ代書人タルニ不適當ナリト認定セシ者ニハ裁判所ニ申立其代



書人タルヲ禁スルノ處置ヲ求ムルヲ

右ノ旨趣ニ循據シテ各組合ハ代書人規則案ヲ編製シ裁判所ニ由立テ其實行ヲ求メ  
ソコヲ望ム又赤間關ニテハ己ニ此旨趣ヲ實行シ規則案ヲ設ケタリ

○信吉五朗君曰 本員ハ藤本君ノ發議ニ賛成シ尙左ノ一項ヲ加ヘタシ

一 代書人ハ裁判所ノ事務取扱時間中少ナクモ一名ハ人民控所内ニ於テ業ヲ執

ルコト

當今ノ例ニテ代書人ニ於テ裁判所カ尙事務ヲ取扱ヒ居ルニモ不拘午後三時頃ニ至  
レハ歸宅シ爲メニ訴訟人ニ不便ヲ與フルコト少ナカラス故ニ必要ノ項ナリト信ス

○藤本直治郎君曰 信吉君ノ追加案ニ賛成ス

○藤井公道君曰 他ノ点ハ凡テ賛成ナレモ獨リ人民控所内ニ於テ其業ヲ執ラサル  
可カラストセルハ不都合ナラン故ニ此項ヲ删除センコトヲ望ム

○栗原茂之君曰 藤本信吉兩君ノ發案全部賛成ナリ且尾道ニ於テハ大抵其旨趣ヲ  
實行セリ

○議長(松山廣居君)曰 他ニ異議ナキヲ以テ藤本君ノ發案及信吉君ノ追加案ニ可  
決ス次テ第五號問題第三項ニ入ルヘキ筈ナルモ全項ハ既ニ第一號第二號問題中ニ  
散在セルヲ以テ之レヲ省キ第五號問題第四項ニ移テ

議 題

利息制限法ノ今日ニ於ケル利弊如何

○信吉五朗君曰 今日ノ利息制限法ハ不必要ナリト信ス何トナレハ今日ノ實際民  
間ノ取引ヲ見ルモ一モ行ハレス法律モ既ニ實行セラルニ至ラハ最早消滅ノ期ノ到  
ルモノト云フ可シ十數年前ニハ隨分其必要アリシモ今日ハ世ノ進歩ト共ニ不用ニ  
歸スルニ至レリ且此法律アルモ狡猾ナルモノハ其法網ヲ免カル、手段ハ容易ナリ  
故ニ本案ハ利益ナクシテ却テ契約自由ノ理ニ反スルノ弊害アルモノナリ

○富家平八郎君曰 本員モ信吉君ト同感ナリ

○平本希一郎君曰 利息制限法ハ固ヨリ利害著シカラサルモノナリ然レモ其ニ付  
テ争アル所ハ之ヲ決スルノ便トナリテ此点ヨリ云ヘハ之ヲ存スルヲ可トス



○藤井公道君曰 利弊ナシ

○藤本直治郎君曰 制限法ハ存スルヲ利アリトス何トナレハ人民間ニ於テ自由ニ之ヲ守ラサルハ敢テ此法ニ限ルニアラス總テノ私法皆然リトス故ニ之ヲ守ルト否ラサルトハ利弊ノ關スル所ニ非ス而シテ一朝其事ノ訴訟ト爲リタル時ノ如キ現在ノ民度ニ比スルモ其不當ノ請求ヲ爲スニモ拘ハラス其結局公力ヲ以テ其不當ノ望ミヲ達セシルハ甚タ允當ナラサルヘシ但現行法ノ利息ノ割合如何ハ經濟上ノ問題ナレハ茲ニ述ヘス

○濱田組合員瀧本駒太郎君報 利息ノ高ヲ制限スルモ實際種々ノ手段ヲ以テ之ヲ免カル、ニ因リ著シク利アルヲ見スト雖ハ一旦爭トナレハ幾分ノ制裁トナルカ故ニ今之レヲ存スルモ亦弊ノ著シキコトナキカ故ニ既ニ存スルモノハ尙之レヲ存シテ可ナリ

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第六號問題第一項ニ移ラン

議 題

和解事件ノ書面ニ訴訟印紙ヲ貼用スルヲ要スルヤ否各裁判所ノ取扱振如何

○藤本直治郎君曰 赤間關區裁判所ニテハ最初ノ申立書ニ貳拾錢ヲ要シ其后ハ申立及申請スルコトアルモ印紙ヲ要セス又船木區裁判所ニ於テハ一切ノ書類凡テ普通訴訟ノ如ク皆印紙ヲ要セリ然レモ本員ノ意見ハ凡テ和解ハ未タ訴訟ニ至ラサルモノナレハ之レニ訴訟印紙ヲ貼用ス可キモノニアラスト考フ

○平本希一郎君曰 和解申立モノノ申立ナレハ矢張貳拾錢ヲ要ス然レモ之ニ關シテ其後ノ書面ニ要セサルヲ正當トス

○藤本直治郎君曰 最初ノ申立ノミニ要シ其后ノ書面ニ要セストハ撞着セル議論ナリ

○栗原茂之君曰 藤本君ノ說ニ賛成ス尾道區裁判所モ例赤間關ニ全シ

○向坂弘君曰 松江區裁判所ハ實例亦間關ニ全シク意見ハ藤本君ニ全シ

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告 和解事件ノ書類ニ付テハ最初和解申立書ニ印紙ヲ貼用セシムルヲ可トス蓋訴訟法及ヒ印紙法中ノ申立ナル者ニ外ナラザレハナリ



○議長(松山廣居君)曰 藤本君ノ凡テ印紙ヲ要セストハ説多數ナルヲ以テ之レニ決シ次テ第六號問題第二項ニ入ルヘキモ全項ハ既ニ第五號問題第一項ヲ議スルニ當リ議了シタルヲ以テ之レヲ省キ直リ第七號問題第一項ニ移ラン

議 題

期間ノ切迫セル訴訟ナルニモ拘ハラテ取次人ヲ以テ呈出セル訴狀ヲ受理セサル裁判所アリ各地ノ取扱振如何

○藤本直治郎君曰 赤間關ノ裁判所ハ仮令期間切迫セサルモ凡テ取次人ヲ以テ訴狀ヲ呈出スルヲ許セリ

○向坂弘君曰 松江ニモ全標之レヲ許セリ

○富家平八郎君曰 山口ニテハ凡テ之レヲ許スモ萩區裁判所ハミハ之レヲ許サズ必ス本人ノ出頭ヲ要スルカ故不便ナリ

○栗原茂之君曰 尾道區裁判所ニ於テモ本人出頭ヲ要スルカ故ニ不便ナリ委任狀ヲ以テ他人ニ取次カシムレハ如何ハ實例ナシ

○岡崎仁三郎君曰 廣島ニテハ常ニ之レヲ許スナリ

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告 濱田ニテハ代人ヲ以テ訴狀ヲ差出ステ許サ、ルコト、ナリ居レリ

○議長(松山廣居君)曰 是レヨリ第七號問題第二項ニ移ラン

議 題

判決謄本ノ下付ヲ拒ミ必ス正本ノ外下付セサル裁判所アリ各地ノ取扱振如何

○藤本直治郎君曰 赤間關ニテハ正本謄本何レニテモ下付ス船木區裁判所ニ於テ

ハ勝訴者ヨリ正本送達ヲ申立ツレハ常ニ之ヲ双方ニ送達スルカ故ニ別ニ謄本ヲ要ムルノ要ナシ故ニ之レヲ請求シタルヲモナシ

○富家平八郎君曰 山口ニテハ必ス正本ヲ受ケシム其理由ヲ問ヘハ判決ハ正本ノ送達ニ依リテ確定ニ至ルモノナルニ若シ當事者ノ一方ニミ送達シ置グトキハ他

ノ一方ニ對シテ判決確定セスト云フニ在リテ頗ル奇恠ナリ

○向坂弘君曰 松江ニテハ正本謄本何レニテモ下付ス



○栗原茂之君曰 尾道モ松江ニ全シ

○岡崎仁三郎君曰 廣島モ松江ニ全シ

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告 濱田ニテハ判決止本送達ノ申立ヲ爲セハ之ヲ双方ニ送達ス故ニ后ニ至リ牒本ヲ要スルコト少ナキヲ以テ之ヲ請求シタル者アルヲ見聞セス

○議長(松山廣居君)曰 是ヨリ第八號問題第一項ニ移ラン

議 題

目下各代言人ノ品位ヲ高尚ニシ他日發令アル辯護士資格ヲ有スルニ當リ其名ニ耻ナサル實カト威嚴トヲ涵養スルノ必要ニ因リ從來庇保ニ傾クノ弊ヲ打破シ汝々汲々代言人規則第十四條各項ニ注意シ全第十七條ノ彈劾ヲ嚴正ニ執行スルヲ隨テ其摘發ヲ怠ルモノニ對シ其目的ヲ遂クル爲メ一ノ規約ヲ設定シ制裁ヲ附スルヲ

○岡崎仁三郎君曰 本問ハ尤モ必要ノ問題ナル可シ然レハ代言人ノ責討ニ關スル

法ノ實行如何ニ付直ニ本會ニ於テ諸種ノ点ヲ議決スルモ無効ナラン依テ代言人規則ヲ嚴正ニ執行スル爲メ各代言人ニ於テ違法者ヲ發見スル時ハ直ニ本會常務委員ニ通報シ委員ハ其違法者ノ組合會長ニ報告シテ速ニ之ヲ告發セシムル様ノコトニセハ可ナラン

○富家平八郎君曰 岡崎君ノ說ニ賛成ス

○藤井公道君曰 岡崎君ノ說ニ賛成ス

○藤本直治郎君曰 成程本問ハ事必要ニ相違ナキモ岡崎君ノ方案ハ其實効ナカラソトナレハ本問ハ摘發ヲ怠ル者ヲ制裁スルニ在レハ仮令ヒ狀師會委員ニ通報セヨト定ムルモ若シ通報セサル時ハ如何ニ之ヲ處セントスルヤ歸スル所無効ナルコト非ズヤ故ニ本員ハ辯護士法ノ發布ヲ待タントス

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告 本問題ハ吾人カ常ニ切望スル所ノモノニ係レリ然レモ這般ノ制裁ノ實行ニ至テハ途ニ良法ナカラソ

○議長(松山廣居君)曰 岡崎君ノ說多數ト認メ之レニ決シ是レヨリ第八號問題第



二項ニ移ラン

議 題

司法三職相待ツテ本務ノ得失ヲ攻究シ司法部ノ發達進歩ヲ謀ルヲ目的トシ毎月  
一ニ回定期會同ヲ爲ス事

○岡崎仁三郎君曰 本項ノ必要ナルハ論ヲ待タズ從來司法三職ノ間各相疎隔セシ  
モ近年各地皆互ニ相提携スルノ傾向アルカ故ニ大ニ便宜ヲ得ルニ至レリ故ニ本員  
ハ速カニ此方法ノ行ハレソトテ希望ス而シテ其組織方法ニ至ツテハ各地便宜之レ  
ヲ設定スルコトセソ

○藤井公道君曰 岡崎君ニ賛成ス

○平本希一郎君曰 岡崎君ニ賛成ス

○濱田組合員瀧本駒太郎君報告 本問題ハ最必要ノコト、信ス諸君其方法ニ付充  
分ノ研究アラソニトテ望ム

○議長(松山廣居君)曰 他ニ異議者ナクハ岡崎君ノ意見ニ決シ次テ號外問題ニ

入ラン然ルニ此問題中其第一項ハ第一號第二號問題中ニ於テ其第二項ハ第一號問  
題第一項ニ於テ其第三項ハ第二號問題第二項ニ於テ其第四項ハ第二號問題第六項  
ニ於テ其第五項ハ第一號問題第五項ニ於テ其第六項ハ第一號問題第六項ニ於テ既  
ニ議事ニ付シ各其結果ヲ得タレハ直ニ號外問題第七項ニ移ラン然ルニ全項中執達  
吏ノ事ニ關シテハ既ニ第一號問題第七第八兩項ニ出テ之ヲ議了シタレハ單ニ登記  
事務ノ点ニ關シ意見ヲ承ラン

議 題

執達吏及登記所事務取扱手續ニ關シ意見アラハ其意見如何

本問題ニ付テハ岡崎仁三郎君藤本直治郎君藤井公道君栗原茂之君向坂弘君富  
家平八郎君等ノ議論アリシモ之レヲ要スルニ其旨趣何レモ現今登記制度ヲ非  
難シ登記法ノ改正ヲ求ルニ在リテ適切ニ本問ニ中ラサレハ之レヲ茲ニ掲ケス  
○議長(松山廣居君)曰 諸君ノ議論ノ多數ニ據ルトキハ要スニ本問ニ就テハ未タ  
十分ノ調査ヲ得スト決セン



諸君今や豫定ノ問題モ是ニテ結了シタレハ第四回ノ通常會ハ茲ニ閉會ス可シ炎  
暑ノ候殊ニ各地ノ諸君ハ貴重ナ時間ヲ割愛シ道ノ遠キヲ厭ハス來會出席セラレ  
タルハ深ク謝スル處ナリ尙ホ明日ヨリハ議決ニ從ヒ殘務委員諸君ヲ煩ハシ議事  
録ヲ整理シ印刷ノ上會員諸君ニ配付ス可シ

茲ニ於テ出席員一同退散ス

時ニ午後五時

明治廿四年九月十九日印刷  
同年同月二十日出版

編輯兼  
發行人

橫木德太郎

廣島縣備后國奴可郡東城村字川東  
三十二番邸

印刷人

石橋長助

鳥根縣出雲國神門郡古志村大字上古志  
八百九十五番地

印刷所

廣島市播磨屋町二番屋敷  
申本活版印刷所



